HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治一三年
Citation	北大百年史, 史料(一), 463-532
Issue Date	1981-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30099
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo1_p463-532.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

明治一三年

三八三　体操器具買入の意見

第三号

千八百八十年一月三日札幌皇
開拓大書記官調所広丈閣下

予テ御談話御座候当校生徒ノ体質ヲ養生スルタメ便宜至当ノ法御取設被成度御希望ノ旨ニ付医師カッターニ此事ヲ協議仕生徒ノ体質ヲ養成スルニ須要ト想思スル器具ノ目録ヲ調成センコトヲ請求致セシニ即チ同人ヨリ千八百七十九年十二月三十日附ヲ以テ左ノ報告書ヲ出セリ

抑モ健全無病ノ人タル各機関トモ運動ノ股分ヲ取ルモノトス若シ此作用ノ欠クルアレハ養生ニ難シ其体ノ欠機即チ患部肉脱シテ多少衰弱スルモノナリ譬ヘハ生徒日常ノ生活ニ於テハ体ノ下部及ヒ右方専ラ運動ヲナシ用ヲ辨スルモノトス

然ルニ体ノ上部及ヒ胸部ハ運動不足ナリ故ニ体ノ性トシテ其欠ヲ補ヒ之ヲ平均センヲ務ムルモノナリ

運動ノ大眼目ハ随意ノ筋肉ニ於ル組織ヲ養生スルト養生ノ不足ヲ補ヒ間接ニ不随ノ筋肉ヲ奨励シ且ツ胸部ノ機関ヲ広潤トナシ其勢力ヲ増成セシムルニ在リ

運動ハ機関ノ作用ヲ進歩セシムルト是ヨリシテ他ニ波及セシムルトニ因テ差アリ故ニ左ニ掲載スル器具ヲ購求アランヲ勧奨ス

軽便耐久ノ体操器一具但シ各生徒ノ靴ヲモ添ユルモノトス

一	ドム、ベール（木製）	百対
一	バルベール　長三英尺各端ニ○字形ノ球アルモノヲ要ス	八十対
一	インヂアン、クロツプ（大小軽重トモ四通リ）	八十対
一	タラペジイ　一箇者上ニ重ネ他ヨリ小ナルモノ	二個
一	ペール、リングス	一揃
一	ロウ、オフ、リングス数五箇	一揃
一	固定パラルレルバル	一箇
一	ハウルチング、ホールス	一箇
一	ハウルチング、バル	一箇
一	マツトレツス　良ク塵芥ヲ去レルモノ	二箇
一	シヨウルドル、エンウエーチング錘	二箇
一	直垂線	一条
一	直垂杭	一対

札幌本庁ヨリ東京出張所ヘ照会シテドクトル、ヂョージエー、リイランドノ管掌セル東京体操場ノ器械師及ヒ図者ヲ送致アランヲ

依頼セラレン事ヲ勧奨ス同所ニテハ現ニ使用スル器具ヨリシテ直ニ其模形図取及ヒ詳細ヲ法リ得ヘケレハナリ其器具ハ悉ク最モ耐久スヘキ物質ヲ以テ神速ニ製作セラレン事ヲ勧奨ス

右数件ノ建白ニ批スルニ於テハ一二ノ要件ニ閣下ノ注意アランヲ抑〔ママ〕クハ余カ職務タルヘキト覚ユルナリ

当校ノ生徒者各自其科業ニ黽勉スル雖〔ママ〕其体質ヲ強壮ナラシメ是ヲ以テ其精神ヲ奨励シテ現今ノ事業ヲ適時ニ連綿セシムヘキ運動ヲ務ムル甚タ寡キニ似タリ彼等ノ官員トナルヘキ勢力ハ其学業中専ラ其体質ヲ健全トナスニアリ是ヲ以テ其才力ト強健トヲ和調セシムヘシ若シ虚弱ナルニ於テハ体質柔弱ノ軽重ニ従ヒ遅速アリトモ必ス才気モ衰フヘシ其故ハ是ヲ以テ天賦ノ維持力ヲ失ヘハナリ

我輩管理スル生徒適宜ノ運動ヲ怠レル確証只二アリ是レ既ニ冀望セサル結果ヲ来セシ等級ニ於テ明カナリ当校初年ノ間ハ欠席僅々ナレトモ其ヨリ遙カ時ヲ経テヨリ忽チ欠席ノ数ヲ増シタリ去学期中ハ医師ノ診断書ヲ以テ許諾シ欠席セル数七十乃至八十ニ及ヘリ是ヲ以テ見レバ至当ノ官員ノ命ヲ以テ適宜ニ動作セシメハ大ニ其数ヲ減スヘキハ疑フヘカラス

前件ノ次第故余ハ謹テ閣下ニ左件ヲ勧奨ス

第一ドクトルカツターノ掲載セル諸装置ヲ可成丈速ニ得ラレン事

第二目今東京ニ於テ使用スル模形ニ従ヒ之ヲ製作セラル、事

第三体操術ヲ農校ノ定則学科中ニ加ヘラレン事

第四前件ニ述フル体操術ハ理学及ヒ解剖学教授ノ定業ニシテ其者ハ毎週若干頭ノ馬ヲ馴練スル事

本条ヲ御参考ニ供セハ允諾アランヲ請フ敬具

札幌農学校教頭心得デイ、ピー、ペンハルロー手記

〔農一〇一〕

三八四　第二期授業時間割提出の件

第七号

千八百八十年一月十七日札幌於テ呈

開拓大書記官調処広丈閣下

一月廿二日ヨリ始ムル来学期中修業ノ次序ヲ此書ニ添ヘ謹呈ス

予科三級生内藤小林両氏ハ去学期中平均五十点下ナルヲ以テ退校セシメラレンヲ謹テ勧奨ス敬具

札幌農校教頭心得デイ、ピー、ペンハルロー手記

〔別紙一〕

千八百七十九年ヨリ八十年ニ至ル札幌農校第二学期中学科教授次序

札幌農校教頭心得デイ、ピーペンハルロー識

四年生

	従八時三十分至九時三十分	従九時三十分至十時三十分	従十時三十分至十一時三十分	従十一時三十分至十二時三十分	従二時至三時
月曜日		獣医学	財政学	土木学	練兵
火曜日		同上	同上	同上	
水曜日		同上	尋常論議	同上	
木曜日		同上	財政学	同上	
金曜日		同上	同上	同上	練兵
土曜日		同上	同上	同上	

三年生

	従八時三十分至九時三十分	従九時三十分至十時三十分	従十時三十分至十一時三十分	従十一時三十分至十二時三十分	従二時至三時	従二時至三時三十分
月曜日	英学	器械学	発音			
火曜日	同上	同上	農学		練兵	
水曜日	同上	同上	綴文			製図
木曜日	同上	同上	農業			同上
金曜日	同上	同上	同上		練兵	
土曜日	同上	同上				

命ニ従ヒ毎週二時間果樹栽培実験

二年生

	従八時三十分至九時三十分	従九時三十分至拾時三十分	従拾時三十分至十一時三十分	従十一時三十分至十二時三十分	従二時至三時	従二時至三時三十分
月曜日		化学及ビ形体学	三角術及測量	本草学		製図
火曜日		分析術	農業	本草学		同上
水曜日		同上	同上	農業	練兵	
木曜日		同上	同上	同上		
金曜日		本草学	同上			
土曜日		同上	同上			

命ニ従ヒ毎週三時間手術

農業ノ運動ハ其学科ノ教授到着迄施行スルヲ得ス

ドルトルゼイ、シー　カツターノ分科

	従八時三十分至九時三十分	従九時三十分至十時三十分	従十時三十分至十一時三十分
月曜日	英学	獣医学	財政学
火曜日	同上	同上	同上

教授シー エツチ ピイボデイノ分科

水曜日	同上	同上	綴文	
木曜日	同上	同上	財政学	
金曜日	同上	同上	同上	
土曜日	同上	同上		

月曜日	器械学	三角術及ビ測量	土木学	製図
火曜日	同上	同上	同上	同上
水曜日	同上	同上	同上	同上
木曜日	同上	同上	同上	同上
金曜日	同上	同上	同上	
土曜日	同上	同上	同上	
	従九時三十分至十時三十分	従十時三十分至十一時三十分	従十一時三十分至十二時三十分	従二時至三時三十分

教授デイ、ピー、ペンハルローノ分科

月曜日	化学及形体学	発音	本草学	果樹栽培実験ヲ命ス
	従九時三十分至十時三十分	従十時三十分至十一時三十分	従十一時三十分至十二時三十分	午後

火曜日	同上			
水曜日	同上	尋常論議		
木曜日	同上		本草学	
金曜日	本草学			
土曜日	同上			

加藤中尉

月曜日	練兵
火曜日	同上
水曜日	
木曜日	練兵
金曜日	同上
土曜日	
	午後従二時至三時

〔別紙二〕

千八百七十九年ヨリ八十年ニ至ル札幌農校予科教授次序

一級生

月曜日	数学及代数学	文明史	英語及綴文	和漢学
	従八時三十分至九時三十分 π	従九時三十分至十時三十分 +	従十時三十分至十一時三十分 ∓	従十一時三十分至十二時三十分 §

二級生

従八時三十分至九時三十キ分	英語	同上	同上	同上	同上	同上
従九時三十分至十時三十分	習字キ	同上	同上	同上	同上	同上
従十時三十分至十一時三十分	読書及綴詞	同上	同上	同上	同上	同上
従十一時三十分至十二時三ス分	地理学	同上	同上	同上	同上	同上
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日

〔ママ〕二級生

従八時三十分至九時三十キ分	読書及綴詞	同上	同上	同上	同上	同上
従九時三十分至十時三十分	和漢学§	同上	同上	同上	同上	同上
従十時三十分至十一時三ス十分	暗算	同上	同上	同上	同上	同上
従十一時三十分至十二時三キ分	英語	同上	同上	同上	同上	同上
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日

ス市郷氏　十宮崎氏　キ井川氏　§長尾氏

札幌農校教頭心得デイ、ピイ、ペンハルロー手記

〔農一〇一〕

三八五　卒業生採用及び語学教師雇入並に貸費生徴募に付伺

（一月二六日検印済）

長官　花押　　調所大書記官　印

札幌農学校卒業生徒処分心得并将来生徒招募方ノ義ニ関シ左ノ条々御指令被下度此段予テ相伺候也

農学校生徒ノ内本年七月ニ至リ四ヶ年ノ学業相卒ルヘキ者十七名有之候処方今在校生徒一年生十四名二年生十六名三年生十七名教授補助ノ為メ右卒業生ノ内ヲ撰抜シ本校教授補助手トシテ数学科ヘ一名化学科ヘ一名農学現術ヘ一名各演武補ヲモ心得サセ御採用相成度此他ハ勧業地理両課并函館七重等ヘ御差廻相成可然哉

右生徒御採用ニ臨ミ其俸給等ヲ考フルニ文部大学校卒業生中医師ハ月俸百円其余ハ同七拾円位ニ有之此他諸省ノ卒業生ヘ給与ノ俸給等凡ソ別紙ノ通ニ有之哉ニ伝承致候得共本使農学校ノ義ハ都テ実用ノ学術ヲ主眼トシ養成候生徒ニテ卒業ノ後其従事スヘキ順序モ亦全ク他ニ異ナリ候ニ付准判任官御用係ニ御採用俸給ハ其学術及ヒ品行ノ優劣差等ニヨリ左ノ通御支給相成可然哉

一 上等月俸（自四十円至五十円） 一 中等月俸（自弐拾五円至三拾五円） 一 下等月俸（自拾五円至弐拾円）

本年七月ノ学期ニ及ヒ専門科入学ノ生徒ヘ教授スヘキ語学教師ニ差支候処内国人ニテハ語音不整ノ為メ専門科教授難為致是迄該校ニ文部学校卒業生等御採用相成候事モ有之候得共語学ニ至リテハ到底純然タル外国人ニ非ザレハ不能就テハ東京横浜等ニ在留外国人中ニ就キ相当ノ者一名相撰ヒ御雇入相成候様致度尤右ハ語音ノミヲ主トスル義ニ付学術等ハ格別相撰ヒ不申積リニ候間俸給ハ下給ノ者ニテ可然被存候

本校生徒ノ義ハ従来官費ヲ以テ徴募相成来リ候処自今ハ貸費ヲ以テ招募シ卒業ノ後月賦ヲ以テ其学費ヲ償還セシメ候方好都合ト被考候ニ付其貸費額概略左ノ通取調申候

一 金五円九拾四銭五厘 一ヶ月貸費金額

金四円五拾銭 食費一ヶ月分但シ一日金拾五銭

金壱円 一ヶ月筆紙墨代

金三拾弐銭 同 洗濯代

金拾弐銭五厘 同 理髪費

外ニ

一 金弐拾八円七拾銭 一ヶ年被服費其他

金六円五拾銭 冬服肌着襦袢 壱組

金五円四拾銭 夏服 同 同

金壱円 帽 壱組

金五円五拾銭 寒サ着幷両着

金壱円八拾銭 短靴 壱足

金三円弐拾五銭 長靴 壱足

金九拾銭 上ハ靴 壱足

金弐円 農業服 壱組

金弐円三拾五銭 寝衣

内金壱円五拾銭 袷衣 壱枚

金八拾五銭 単衣 壱枚

〆

右被服費金弐拾八円弐拾五銭〔ママ〕ヲ十二ヶ月ニ割ル時ハ平均一ヶ月金弐円三拾九銭壱厘六毛六トナル

但本科生ハ平常胴服難用者ト雖トモ武芸或ハ農業現術場ニハ必ス胴服着用スヘシ

以上

〔別紙〕

名称	貸費ノ額	在学ノ期	卒業後採用ノ節等級幷俸給
大学卒業生	自四円至五円	四年	自七十円至百円
工部学校同	未詳	六年	未詳
陸軍士官校同	同		少尉
海軍兵学校同	同		少尉試補
司法省同	七円	二年	自十二円至十五円

〔農一〇一〕

三八六　卒業後高尚の学科を修めしむる者推薦の件

第十三号

千八百八十年一月廿六日札幌ニ於テ

開拓大書記官調所広丈閣下

閣下ロ頭御依頼之旨ニ拠リ現今四年生ニシテ其卒業ノ后高尚ノ学科ヲ修メシムルヲ適当ト各職員ノ識認スル学徒ノ姓名ト右ニ適応之学科ヲ出シテ以テ貴覧ニ供フ

数学及土木学科　佐藤昌介

農学及本草学科　荒川重秀

化学及地質学科（但シ本科中ニ地誌学及礦学ヲ含ムベシ）　小野兼基

蓋シ此三名ヲ撰挙セシ原因ハ左ノ三条ニ由ル即チ

第一　学力

第二　各自其撰ニ当レル学科ヲ修ムルニ特ニ格好スルコト

第三　健康即チ平素ノ容体

荒川小野両子ハ至極健康ナレトモ佐藤子ハ身体虚弱ノ為メニ全科ヲ卒フル迄修行シ得ルヤヲ保ツ能ハザルナリ然レトモ風土ノ変換ハ必スヤ同子ノ為メニ宜シカラン将又誰カ責ヲ負フベキ〔ママ〕シ人ニ同子ノ衛生ヲ委ネ而シテ古来日本ノ風トシテ（自カラ秀逸ナランヲ欲シ実ニ賞讃ニ堪ヘザル勉強ハ）外国留学生中ニ尤普通ナル摂生ニ背ケル過度ノ勉強ヲ遏止セバ同子ハ其失フ所アルヨリハ寧ロ遙ニ得ル所アルコト余カ確ク信スル所ナリ

今右ノ三子ハ如何様ノ事業ト雖モ能ク之ニ当ル無上ノ利益ヲ占メンコトニ孜々勉励セルモノトシテ閣下ニ薦挙スル実ニ喜悦ニ堪ヘズ謹言

札幌農学校代弁教頭デー、ピー、ペンハルロー

〔道〇三八三一〕

三八七　語学教師として外国人一名雇入に付申入

二ノ十九号

東京書記官　　札幌書記官

当地農学校予科生徒教師之義是迄東京大学卒業生其他御採用相成候得共語学ニ至リテハ内国人ヲ以テ外国語ヲ教授候義ニ付到底純然之語音ヲ学ヒ得ル能ハス夫カ為メ専門科入学ニ臨ミ差支候者も有之依而語学教師トシテ外国人一名雇入度旨長官殿御出函之節調所広丈ヨリ稟議之上許可相成候ニ付東京横浜在留之外国人中ニ就キ相当之者御撰挙有之度尤英語学教授ニ而已従事為致候ニ付年限者凡二ヶ年其俸給学術等者先年御雇相成候米人コルウエン氏ト粗同様之者ノ御見込ヲ以御雇入方可然御取計有之度此段申進候也

十三年二月四日

追伸目下授業差支居候ニ付至急拂取候様致度此段申添候也

〔農〇九三〕

三八八　内国勧業博覧会出品目録上申

校長㊞(調所)　農業園㊞(森)㊞(吉田)㊞(大里)

来ル明治十四年内国勧業博覧会出品別紙調書之通差出度候ニ付此段上申候也

十三年二月六日

〔別紙〕

明治十四年第二回勧業博覧会出品概目録

父母アシヤ種米国マサチユセツツ州産

一　牝牛　壱頭　一歳六ヶ月
　　此代金百七十円　但系統書添ル
同　同　同
一　牡牛　壱頭　一歳六ヶ月
　　此代金二百円　但同断
一　タイール　三十本　但組立絵図面添
　　此代金合五拾弐銭五厘

大拾本此代二十銭内経三寸三分長一尺二寸
小拾本此代十五銭内経一寸六分長一尺二寸
鋿五本此代五銭縺手五本此代十二銭五厘

一　玉葱　三拾斤
　　三種　黄色タンバルス、早熟紅球、エザルフイルド大形紅色、
　　此代金七拾五銭但壱斤弐銭五厘ノ割但百斤以上ハ二銭ノ割
一　同種　六升　但不売
　　同三種
*一　ハーン雛形　壱通
　　此出来代金五拾円
一　金四拾円　　牛二頭入枠出来代
一　金百弐拾円　　牛二頭小樽より東京迄往復運賃
一　金三拾八円三拾弐銭五厘　牛二頭札幌より東京迄途中飼料及同

所滞在中ノ分共

一　金弐円　　葱幷タールイル入函弐ツ出来代

一　金弐円七拾銭　　同函弐ツ此石弐石札幌より東京迄運送賃百石百三十五円ノ割

一　金弐拾円　　小樽及東京艀賃幷運送賃共大略見込

一　金弐円七拾銭　　ハーン雛形入函壱ツ此石弐石東京迄ノ運賃則同断

合金六百四拾七円

＊　ハーン雛形三十分ノ一（横三尺三寸余　竪壱尺六寸余）牛馬室ケ所（横二寸　竪一寸五分）

牛室ケ所合六十三ケ所内（牛四十六馬拾頭分　牛馬産室七ケ所）

〔農〇九九〕

三八九　ブルックス雇継決定に付代人雇入中止の申入

第四百拾五号

在米我公使館吉田代理公使へ御書状案

当使札幌農学校教師ウヰリヤム、ヒー、ブルークス雇満期解約ニ付同人代リトシテ教師雇入方ノ義客歳十一月十三日付第弐千三百八拾六号ヲ以及御依頼置候其後屢電報往復ノ末遂ニクラーク人撰ノ教師雇入ノ事ニ御運相成候折柄ブルークス雇継ノ義更ニ議決致候ニ付クラーク人撰ノ教師ハ御断相成度電報御依頼致候右ハ最初申進候通ブルークスハ解約帰国ノ積ニ而既ニ任所出発当地迄到着之後更ニ同人江請願ノ次第有之候ニ依リ雇継ノ事ニ決定致候訳ニ有之該件ニ付テハ彼是御手数ヲ煩シ深謝ノ至ニ候尤クラーク人撰一条ニ付同人存意等御見聞ノ次第モ有之候ハヾ無御伏蔵御申越相成候様致度前件電信而已ニ而者事情貫通致兼候義も有之候ニ付御謝詞旁為念此段申進候也

明治十三年二月廿三日　　開拓長官黒田清隆

在米国華盛頓臨時代理公使吉田次郎殿

〔道〇四四二二〕

三九〇　解剖学生理学数学等の用具購入の件

廿五号写シ

千八百八十年三月四日札幌皇

開拓大書記官調所広丈閣下

解剖学性理学及数学課等ニ於テ要用ノ品具目録ヲ進呈仕候右ハ在東京或ハ横浜ノ商社ヨリ急キ御買入相成度但シ其概算価額ハ七拾円程ニ付本年（明治十二年ヲ云フ）度予備金ノ内ヨリ御仕払相成候様仕度此段謹テ薦告仕候敬具

札幌農学校教頭心得デー、ピー、ペンハロー

〔別紙〕

屍体解剖器		
内		
スカルペル(大サ分類セシモノ)	六	
テナキユラム	一	
カアテレージナイフ	一	
デセクテンクフオーセツプ	二	
ブローパイプ	一	
スツレイトスシツソル	一	
カアブド、スシツソル	一	
グルーブド、ダイレクトル	一	
マレツトウヰスチセル	一	
プローブ	一	
ボーン、フオーセツプ	一	
チエン及フーク	一	
其他		
アナトミカル、インジエクテングシイリンジウヰスヴアルヴス	一	
フハイン、インジエクテング、シイリンジ	一	
スカルペル(中形十大形十)	二十	
デセリテング、フオーセツプ		
数学課用紙		
復式簿記用紙　大判　但シ上等		
元帳用ノ界紙　二束		
ジョルナル用界紙　四束		

札幌農学校教頭心得デイ、ピイ、ペンハロー

〔農〇九三〕

三九一　米国へ書籍及び器械類注文の件

廿八号

千八百八十年三月五日札幌

開拓大書記官調所広丈閣下

米国ヨリ購求ノ書籍及器械類注文書御承諾ヲ得ンタメ備覧候各物品概算之価額ハ左ノ如シ

弐百弗	書籍
七十五弗	新誌及雑報郵税共
弐百弗	顕微鏡ノスライド
弐百七十弗	土木家用ノ測量器

右品具購求ノ儀ハ来七月以後ニ係ル年度定額金調ベ中ニ予備致置候儀ニ御座候

札幌農学校教頭心得デー、ピー、ペンハロー敬具

〔別紙一〕

写シ　千八百八十年三月四日日本札幌

ジェー、ビー、リピンコット商社御中

札幌農学校ニ代テ爰ニ書籍注文書差進候条全ク水害ヲ防クヘキ確タル函詰ニナシ貴下ノ御手配次第速カニ札幌ヘ送出被致度此書写シ一綴在華盛頓府日本公使ニモ送致可相成筈ニ付仕出等ハ同公使ヘ差出決算可相成候也

札幌農学校教頭心得デー、ピー、ペンハロー

写シ　書籍目録　出版人

ニツコルス、インツロダクシヨン、ツー、バイヲロジー　十九部　アプル

ダヴキス、ランドマーク、ヲフ、ゼネラル、ヒストリー　十九部　ポツト

カツタス、ズーロジカル、チヤート　一揃　リツプ

ニツコルソンス、マンナル、ヲフ、ズーロジイ　一部　アプル

ハキスレー、ゼ、ラージフヒツシ　一部　同

モーレース、インギリスメン、ヲフ、レトルス（バムス、ヒユーム、ギツボン、ゴールドスミツ、ジヨンソン、其他十六冊）　一揃　ハー

ホルメス、ポーム、ハウスホールド、イデ、クロ、　一部　エツチ、ヲー幷レヲ

ウキルラリヲルス、ボングス、ヲフ、スリイ、センチユリース　一部　同

ハウスホールド、イデ、クロ　一部　同

ブームス、ポーム、ランスダヲン、イデ、　一部　リツプ

ポープ、ポームス、ランスダヲン、イデ　一部　リツプ

スコツトス、ポームス、ランスダヲン、イデ、　一部　同

ミツトンス、ポームス、ランスダヲン、イデ、　一部　同

ウヲルヅウオルス、ポームス、ランスダヲン、イデ、　一部　同

ムーレス、ポームス、ランスダヲン、イデ、　一部　同

ビウテース、ヲフ、シエークスペヤ、イデ、　一部　同

レジンデー、ボーラズ、イデ、　一部　同

ロビンソン、クルソー、カアレトンス、イデ、　一部　同

アラビヤン、ナイツ、カアレトンス、イデ、　一部　同

ドン、クニキスラート、カアレトンス、イデ、　一部　同

スウキス、フアミリー、ロビンソン、カアレトンス、イデ、　一部　同

セウエル、エンド、ヨンジ

ヨーロピン、ヒスト、イン、セレクションス　二冊
一部　アー
ウヰリヤムス、プラクテース、ヲフ、ヴエテリナリーメデシン
一部　ウード
ロベルツス、ハンドブツク、ヲフ、メデシン
一部　エル井ビー
トツドハンタルス、メカニツクス、フオールベジナルス
二十部
サンフボルズ、マナ、ヲフ、ジヲグラフヒー、エンド　ツラベル、
アジヤー、ヨーロツパー、ノースアメリカー、
グリインス、リーデング、フロム、インギリス、ヒストリー
一部　ハアパル
シモンヅス、レソールシス、ヲフ、ゼジイ、
一部
アニマル、パラシツス、エンド、メスメーツ
一部
フハイブ、センセス、ヲフ、マン
一部
アニマル、ロコモーション、
一部
アニマル、メカニスム、
一部
ダント、(英国プース、ノ反訳)
一部
マイクロケミストリー、ヲフ、ポイゾンス
テー、ジイ、ウラルンバイ、
一部
ベルケバイス、クリープトマミツク、ボタニー
一部
クーケス、ブリテシ、フオンジ
一部
クーケス、マイクロスコピツク、フオンジ
一部
ソラー、フヒージクス、ロケーヤー、
一部
スタデース、イン、スペクトム、アナライシス、ロケヤー
一部
フオンジ、ゼアー、ネーチユール、インフルーエンス　エンド
ニーセス、エム、シイ、クーケ
一部
ヲン、フヘルメンテーションズピー、シユツエンベルガー、
一部
ハヲ、ツー、ウヲルク、ウヰス、ゼ、マイクロスコツプ、
エル、エス、ビーブ、フヒフス、イデ、
一部
マイクロスコツプ、カーペントル
一部
プロトプレースム、ヲル、マリランド、ライフ
エル、エス、ビール、
一部
マイクロスコツプ、イン、メデシン、
エル、エス、ビール
一部
ゼ、マイクロスコツプ、エンド、マイクロスコピツク
テクノロジイ、フレー、
一部
ダビス、ソルベイング
二十部

ダビス、ゼゲンドル、ウヰス、ツリゴノメトリー　エンド、
エーブルス、インクルーデッド
以上

札幌農学校教頭心得デー、ピー、ペンハロー

〔別紙二〕

写シ　千八百八十年三月五日日本札幌
合衆国ボストン府華盛頓街第二百八十三番館
エー、ウヰルリアム、商社御中

千八百八十年七月一日ヨリ一ケ年間左ノ新誌及雑報類御差送リ有之度札幌農学校ニ代テ余ヨリ更ニ及御依頼候
エン、ズイ、グラフヒツク
スサエンテフヒツク、アメリケン、ウヰス、ソツプレメント
アメリケン、ジヨルナル、ヲフ、スサイエンス、エンド、アート
ライテラリー、ウヲルド
ハーパス、ウヰークレー
アメリケン、アグリコルチユリスト
ラント、エンド、ホーム
コントリー、ジエントルマン
ゼ、ヴヰテリナリヤン(インギリス)
ゼ、ガードナルス、モンスレー、エンド、ホルテカルチユリスト
セント、ニツコラス
マクリブナルス、モンスレー
イルロストレーテツド、クリステアン、ウヰークレー
イルロストレーテツド、ロンドン、ニユース
左ノ如ク記載ヲ請フ

日本北海道札幌農学校

此書写シ一葉在華盛頓府日本公使ヘモ被差送候筈ニ付諸仕払等ハ同公使ニ於テ決算可相成候也

札幌農学校教頭心得デー、ピー、ペンハロー

〔別紙三〕

写　千八百八十年二月廿七日日本札幌
抹州ボストン府デウオンシヤイル街百三十一番館
チヤーレス、ストツドル貴下

植物学比較解剖学理学ノ説明ニ須要ナル物件目録ヲ此書ニ添ヘ差進セハ顕微鏡ノ見本ニ於ル如ク適宜ノ処置ヲ施サレ購求アランヲ希望ス其装置ハドクトルヘイントノ式ヲ貴重ス尚スライドハ堅牢ナル適良ノ箱ニ納メ毀損セサル如クセラレ毎箱トモ平易明亮ノ文字ヲ記載シ植物解剖理学ノ物件トモ各入記ヲ附シ其各物件ヲ混淆セシメサル

タメ数箱ヲ調整アリテ充分ニ之ヲ納メラレンヲ欲ス
此注文品ハ可成丈速ニ調整セラレ在華盛頓府日本公使ノ指揮ニ従ヒ
札幌農学校ヘ悉皆送致セラルヘシ尚此注文書ノ写ヲ同公使ヘ送レハ
計算書ヲ同氏ヘ出サルヘシ敬具

札幌農校教頭心得デイ、ピイ、ペンハルロウ手記

写　見本等ノ目録

一　玻璃製スライド（縁ヲ琢磨セルモノ）　四ドーゼン
一　同蓋　（完備）　六ドーゼン
一　モルレル、タイプン、プレート　一
一　ジアトームス
　スミツス氏学科用品
一　コロ、フキール　一　アレウローン
一　蕃薯玉蜀黍小麦箭根製ノ糊
一　ラフアイテス、イン、シツ　一　サイトリス、イン、シツ
一　木綿　亜麻　麻　石炭
一　ストマタ」ヲ示ス、エピデミカル、チツシユウ
一　水草ノ気管ヲ示ス截断部
一　エピデミカル、ヘイル　五箇ノ最タル形状
　層生幹樹
一　嫩弱樹幹ノ横断幷ニ直截セル完備ノ部
一　カンビユームライブル、パレンチマ及ヒ「コルク」ヲ示ス木皮ノ截断部
一　幼樹幹ノ截断部　脈管ノ初起及ヒ其集合部ノ毀損ヲ示セルモノ
一　樹根ノ截断部　横断幷ニ直截セルモノニシテ「ウオツトキヤツプ、メリステム及ヒ其他部ヲ示スモノ
一　嫩芽ノ截断部　ポンクチユム、ウエンテーション」ノ部及ヒ「パーレント、ステム」ニ符合スル其関係ヲ示スモノ
一　葉茎ト樹幹ノ截断部　木幹ノ木質ト脈管ノ連合ヲ示スモノ
一　木葉直截ノ部
一　木理及ヒ条痕ヲ顕ス木質ノ小孔截断部
一　液汁循環ノ繊繍ヲ截断セル部
一　ピニス状ノ葉ヲ横断セル部
一　幼雄蘂ノ截断部　将ニ雌蘂ニ嫁センストスル花粉ヲ示スモノ
一　キユシユル、ペポ、ビ、スキユス、ミニユリユス・モスカトス、チユリユーム・インダイブス・コニフエラエ
　心生樹
一　樹幹ノ截断部　横断幷ニ直截セルモノ
一　連合脈管ノ截断部　横断幷ニ直截セルモノ
一　樹根ノ截断部　横断幷ニ直截セルモノ
一　穀類ノ鎖状管截断部
　蕨類
一　サイストプテリス」ノ結実部

一 スポランチア 二三ノ異種
一 フロサルリユス」ノ截断部 アウテンチア及ヒ「アルチエコリア」ヲ示スモノ

蘆茅類

一 スポランチア及フリー、スホールス
ヘパチシアル
一 エム、ポリモルフア」ノ「アウセンヂアル、レセプテークル」ノ截断部
一 エム、ポリモルフア」ノ「スポールス及エラートルス
一 エム、ポリモルフア」ノ「ラヂカル、ヘールス

蘚苔類

一 サリユス」ノ全体截断部 各種ノ畳層ヲ示スモノ
一 アポセシユーム」ノ截断部 整備セル結実部ヲ示スモノ
一 菌ノ再生ヲ示ス「スライド一揃 各種模造ノ見本
一 隠薬花類再生ノ最タル形状ヲ示ス「スライド一揃
一 トリユラ 一 ヂストマ
一 アカリユス、スカビシ 一 サイコロツプス（蜈蚣）
一 マイコロスポロン 一 サイコロツプス（卵）
一 アカリユス、ドメスチキユス 一 アクニオン
一 ピユレツキス、ペネテレンス 一 ペヂキユリユス、カルパリス
一 カルヂアシアル
一 サイスチセルキユス、セルリユロシユス
一 トリチナ、スピラリス 一 エチヌーウオキユス（狗）
一 トリチナ、スピラリス（包括セルモノ）
一 タエニア（頭）
一 カエニユリユス、セレブラリス
一 クレカリネアル
一 コラル（横断セルモノ） 一 スポンジ（シリシオウス）
一 コラル（直截セルモノ） 一 トルベルラリア
一 スポンジ（石灰質ノ）
一 シエル、ラジヲラリアン（墜石）
一 フオラニミフエル（横断セルモノ）
一 フオテニミフエル
一 水蛭ノ歯及筋
一 牡蠣殻ノ横断セルモノ
一 真珠母ノ截断部
一 油螺（バイ）ノ薑擦ニ似タル機関
一 烏賊甲ノ横断部
一 蟹眼直截ノ部
一 昆虫ノ眼直截部

骨類

一 人骨　直截幷ニ横断部
一 狗骨　同断
一 鳥骨　同断
一 魚骨　横断セルモノ
一 爬地属ノ骨　同断
　歯類
一 人歯　直截セルモノ
一 鮫歯　同断
一 狗歯　同断
　人体軟骨
一 初胎軟骨　一 成人軟骨
一 軟骨及堅骨　一 黄（角製）
　連続スヘキ組織
一 白網膜ノ組織　一 黄色弾力アル網膜ノ組織
一 アレヲラル」ノ組織　一 脂管アル「アレヲラ」
　筋肉ノ組織
一 剝離スヘキモノ　一 剝離セサルモノ
一 膩リテ衰廃セルモノ
　神経ノ組織
一 神経管　一 筋根上ノ腫物
一 神経帯横断セルモノ
　動脈
一 横断セルモノ
　馬皮
一 直截セルモノ
一 伝染病皮直截ノモノ
一 毛根（人ノ）
一 膩核（人ノ）直截セルモノ
　エピテリユーム
一 シリエーテツト　一 コロムナル　一 ペーブメント
　蹄
一 横断セルモノ
一 直截セルモノ
　血ノ極微分子
一 膠　一 プロチユース
一 駱駝　一 蟹
一 血ノ結晶
　肝臓
一 肝臓ノ下面耳孕Cニ彩色ヲ施セル部
　胃腑　腹嚢

一　馬　　一　牡牛
　腸
一　直截セルモノ　一　ウヰルリ
　スペルマトゾーン
一　蟾蜍　一　鼠　一　羊
一　馬
　オウヰユーム
一　狗　　一　羊或ハ牝牛

札幌農校教頭心得デイ、ピイ、ペンハルロウ手記

〔別紙四〕

千八百八十年三月五日日本札幌
在マサチユセツス州ボストン府プロヴヰンスコート街九番館
バツフ、ベルガー商社御中

土木家及測量家用「ツランシツト」全部確実ナル製作ノモノ御送リ有之度札幌農学校ニ代テ及御依頼候但シ其平面環輪ノ度盛ハ純銀ニシテ三十秒迄度盛ヲ有シ竪ノ全輪モ純銀「ミニユート」ノ度盛ヲ帯ヒ斜傾ノ螺施〔ママ〕ト毫厘ノ度盛ヘ日光除ケ擦玻璃トノ附属アルモノニシテ被袋アルヲ要ス

右器械ハ其使用ノトキ自在ニ動キ且毫モ水害ノナキ組立ナルモノヲ撰ブ

貴下ノ御都合次第至急札幌ヘ御送出有之度此書写華盛頓府駐剳日本公使ヘモ被差送候筈ニ付諸仕払等ハ同公使於テ決算可有之候也

札幌農学校教頭心得デー、ピー、ペンハロー

〔道〇三八三一〕

三九二　校園用として種馬及び家禽等購入の件

第二十六号

千八百八十年三月五日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

校園ニ備フヘキ種馬一頭家禽若干購求アラン事ヲ閣下ニ開伸ス右ハ教頭ホウヰーラル初発米国ヘ帰国ノ節其購求ヲ委托シタレトモ閣下御了承ノ事故アリシヲ以テ同氏ハ之ヲ果サヽリシハ必ス閣下ニモ御了知ナルヘシ

其節其購入ニ須要ノ金額ハ華盛頓府ニ送致アリテ尚今ニ本使ノ備金トシテ同所ニアルヘシ其金額其節須要トセシハ八百九十弗ナリキ然ト雖トモ現今ニ至リ余カ希望セル如キ種馬ハ二千弗モスヘク加之家禽購入ノ価額ハ百二十五弗ナルヘシ之ヲ合算スレハ惣計二千百二十五弗ナルヘキ概算ナリ」右購入相成ラン〔ママ〕ニハ教頭クラーク之ヲ担任スヘキヲ確信セハナリ其他上事ヲ委托シ能ハスヘキノ者ヲ了知セサルカ故同氏ニ校園ノタメモルガン種馬一頭ブロンス吐綬鶏六羽ライ

ト、ブラス家鶏六羽白レオルム家鶏六羽ヲ購求セシメラレン事ヲ謹テ閣下ニ開陳ス敬具

札幌校園監督ウヰルリアム、ピイ、ブルークス手記

〔道〇三八三一〕

三九三　貸費生規則〔注一〕（三月カ）

（印）（調所）

一　貸費生ハ官費生ヲ合セテ五十名ヲ定限トシ学力年齢等本科生タルニ適スルモノニ非サレハ貸費生タルヲ得ス

一　貸与ノ金額ハ入学ノ日ヨリ月々九円〔注二〕ヲ規トシ其衣服筆紙等ノ現品ヲ以テ給シ或ハ其価金ヲ以テスル等ノコトハ本校ノ便宜ニ因ル可シ

一　貸費ハ卒業ノ後月々九円ツヽ返納スヘキ者トス然レトモ開拓使ノ官員トスルカ又ハ北海道中ニ在テ農業ヲ営ミ本使ニ於テ成功ヲ期ス可キモノト認ムルトキハ其全額或ハ幾分ノ償還ヲ免ス可シ

但シ満五年奉職ノ者ハ貸費償還ニ及ハス

一　学業進歩セサルカ品行修マラサル等ヨリ退学セシムル者若クハ契約書ニ誓ヘル期限前不得已事故アツテ自ラ乞テ退校スル者ハ在校中ノ貸費三ケ月間ニ其全額ヲ返納ス可シ

一　授業料ハ月々金壱円トス

私儀今般札幌農学校貸費生トシテ入学被差許候ニ付テハ御規則堅ク相守可申旦卒業後ヨリ月々金〔朱書〕「九」円宛月賦ヲ以テ貸与ノ金額無相違返納可仕若シ又国法或ハ校則ヲ犯シ或ハ渋鈍ニシテ学才ニ乏キノ故ヲ以テ退校被申付候節ハ在校中ノ貸費速ニ会計係ヘ返納可仕事

保証人契約書

生徒誰某義札幌農学校ヘ入学御差許相成候上ハ私儀其保証人ト相成同人ノ開拓使ニ誓ヒタル条款ハ之ヲ誠実履行為致可申責ニ任シ将又同人ヨリ金員上納可致モノ有之滞候節ハ速ニ私ヨリ其負債金額ヲ本校会計係ニ上納可仕段契約仕候仍テ如件

年　月　日　　姓　名

〔注一〕本件は原案であるが、訂正されたとおりに決定されたと思われる。なお入校証書案等は**四一七**を参照。

〔注二〕明治一四年四月一日より一二円に改められた。

〔農一〇一〕

三九四　校園用器械類購入の申入

第三十九号

千八百八十年四月十四日札幌皇

開拓大書記官調所広丈閣下

別紙目録ノ校園用ノ器械類ヲ御許諾ノ上米国ヘ注文セントスルヲ〔ママ〕此書ヲ開陳ス右允諾アランニハ桑港ニム、シー、ハウレイ商会ヘ遣スヘキ注文書ヲ認メンヲ欲セハ其節同時桑港在留日本領事柳谷謙太郎氏ヘモ此注文品ノ目録ヲ差送度左スレハ同氏ハ其政府ヨリ右仕払ノ委托ヲ受クヘキヲ以テ余カ注文書ニ詳記セル品物目録ニ照シ仕払ラハルヘシ如此手順トナセハ過チ少ナキノミナラス事最モ迅速ニ調フヘシ

此器械類概算ノ価額ハ一千二百八十八弗ニシテ此高ハ三ケ年来校園ノ贏余金ヲ以テ容易ク仕払フヲ得ヘシ敬具

札幌校園監督ウヰルリアム、ピイ、ブルークス

〔別紙〕

校園ニ須要ナル器械類

一　ボツケイスモーブル及ヒセルフレイキリープル　一具　価　二百四十弗

一　スライド、テイブル、ウード、サウイング、マシイン　一具　価　七拾五弗

一　スキユツトレルス、鉄軸ルンニングギール　二具　価　三百廿弗

一　チヤチルロンス弾機天秤　二具　価　二弗

但シ三十磅ヨリ半磅迄ヲ秤ル第五号ノ品

一　フエールバンクス、大乾草秤　一具　価　二百五十弗

一　第二号園鍬　十八挺　価　十四弗

一　コルリン及ヒ商会ノ壮丁斧　十二挺　価　十五弗

一　カツトル、カルヅ　廿四　価　十弗

一　幅四英寸長四十英尺ノゴム帯　価　五弗

一　幅三英寸長廿英尺鍍銀セル鉄管　価　五弗

一　ブリツキシス計糖器　三個　価　六弗

一　チケノルス改良手用乾草圧搾器　一具　価　百四十四弗

一　アルレン蕃薯転起耡　一挺　価　拾二弗

一　〃　改良農　一具　価　六十五弗

但シ最良鋼鉄板

一　〃　農磨　価　廿五弗

一　ウキクトル手用磚製器　一具　価　八十五弗

一　第二号アーメス円頭鏟　十二挺　価　十五弗

一　英式図引具　一揃

此器具ノ価額ヲ辨解セサレトモ他ノ品物ノ直引ヨリ多カルヘシ

総費額一千二百八十八弗

〔道〇三八三一〕

三九五　校園用器械購入に付回答

第四拾四号

本月十四日付ヲ以テ校園ニ須要ナル器械購入致度旨御申出了承候ヘ共概算代価一千弐百八拾八弗ヲ三ケ年来同園ノ贏余金ヲ以テ仕払フ訳ニハ至リ兼候依テ来十三年度予算ヲ以テ購入候義ハ差支無之候此段申進候也

明治十三年四月十九日　　開拓大書記官調所広丈

ウヰリアムブルークス貴下

〔道〇三八三一〕

三九六　貸費生招募に付申入

五ノ三十二号

東京三等出仕　　札幌書記官

書記官

当地農学校貸費生徒召募之義ニ長官殿御出函之節調所大書記官ヨリ伺済相成居候処本年七月於其地十余名召募候ニ付別紙第壱号ハ予テ新聞紙ヲ以テ広告候様御取計相成度且志願者ノ内校則等詳細承知致度旨申出候ハヽ別紙第二号第三号御示シ相成度尤入学試験之義ハ該校教頭心得ペンハロー氏満期離任ニテ出京候ニ付其節為取扱候筈ニ付右ニ御了承相成度此段及御掛合候也

明治十三年五月四日

〔別紙〕

〔朱書〕「第一号」

広告案

今般札幌農学校ニ於テ本科貸費生十余名召募候ニ付志願ノ者ハ願書ニ学業履歴書ヲ添ヘ来ル六月三十日限東京芝山内本使出張所ヘ願出ツベシ

但委細ノ義ハ同所ニテ承合スベシ

検査項目

第一　年齢十六年以上ノモノ

第二　身体壮健ニシテ種痘或ハ天然痘ノ済ミタルモノ

第三　英語（読書、説話及作文、翻訳等）

第四　地理書（東西両半球）

第五　万国史（初科）

第六　算学（分数、比例、ヨリ簡易方程式ニ至ル）

第七　漢学（日本外史、十八史略）

願書式

私儀札幌農学校貸費生志願ニ付御検査ノ上入校御差許被下度此段奉願候也

府(県)国区郡町村番地華士族平民子弟
宿所府下何区町何番地何ノ誰方

月　　姓名印

開拓使出張所御中

附箋　「第三号」[朱書]ハ農学校本来ノ定則ニ候処今回初テ貸費生ヲ召募スルニ付更ニ第二号ヲ編輯候間若シ二号ト三号ト相矛盾セル処アラバ渾テ弐号ニ準拠候義ト御心得有之度候也」

「第弐号」[朱書]貸費生規則（取裁録ニアリ）

「但本人及証人ノ誓書ヲ校長宛トシ末ニ府県長官ノ奥書ヲ添ヘ」[朱書]

「第三号」[朱書]第二年報百二十九葉ヨリ百四十四葉マテヲ摘録ス

〔農〇九三〕

三九七　地質学等教授の外国人雇入の申入

第五拾五号

千八百八十年五月四日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

御口頭御頼談之旨ニ従ひ当学期後本草学科教授之職を兼務可致哉否教授フルークスニ尋問致候処現今之職ニ従事候得者自己幷ニ本使之御都合ニ取ても本草学之教授者致兼候趣申聞候

教授フルークス斯く此事業ニ関渉不仕上者外国教員者只三名ニ減少致シ然る時者教員悉く余暇なき故地質学及ひ辨舌之如き学科者廃除せさる越得さるニ至り候得者之ニ御着意有之度候本草学者須要之学科ニ而貴重なる学校之体裁越維持致候ニ者此教授を特殊適任之者ニ教授為致度又地質学科者殊ニ須要之学科ニも候得者目今之適任者へ教授為致候より尚一層精密之方法ヲ以教授為致度是ヲ以本草学及ひ地質学之教授ヲ兼ネ其地当校ニ而須要なる学科之教授越補佐可為致適任之外国人一名御雇入相成度謹而此段開申候敬具

デイ、ビー、ペンハルロー手記

〔農一〇一〕

三九八　山田義容外四名処分案に関する伺

農第六十弐号

長尾布山調

校長㊞(調所)　農学校掛㊞(加藤)㊞(宮崎)㊞(長尾)㊞(井川)㊞(いちごう)㊞(加藤)

山田義容外四名処分之義ニ付教頭心得ペンハローより五月三日付ヲ以テ上申候書面御下付相成於是私共評議異見ノ次第左ニ陳述仕候

山田外四名之者放蕩ニ渉リ校則ヲ犯シ候条者勿論警察署より永井於菟彦連累ヲ以テ数度推鞫ヲ受ケ過失暴顕致候段有之且又四年生徒ヨリ種々ト申立候儀も有之右等ニ而篤ト内外之体面相考熟議ニ及候処

教頭心得申立ノ如ク而已ニ而者苟且姑息ニ流レ却テ校中ノ沸議ヲ醸シ候様ニ可立到ト存候且此度之儀者大ニ本校之名誉ト向来之盛衰トニ関係有之ニ付必至ト果決ノ御処分ヲ以テ悪習之根帯ヲ絶チ校規振張校中粛整ニ帰シ候様致度尤五名之者共ハ全ク校則ヲ犯シ不行跡及候廉ニ而別段軽重ヲ置キ論議可致様無之就而者右一同退校被申付可然ト存候此段私共決議ヲ以テ相伺候也

十三年五月五日

付　永井於菟彦外五名の処分案

第五拾九号

千八百八十年五月三日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

生徒ニ犯罪者アリシヲ教員等伝承ス如此ハ当校ノ栄名ヲ汚シ其害ヲ他ノ生徒ニ波及シ忽チ校則ヲ破ルヘキヲ以テケ様ノ場合ニ適セル罰則ヲ左ニ掲載シテ参考ニ供ス允諾アランヲ請フ

第一　永井氏ハ偸物ト放蕩ノ廉ヲ以テ正規ニ照シ該校ヲ放逐スヘキ事

第二　放蕩ト平素不行跡ニ随従セル山田氏ヲハ該校官員ト生徒ノ目前ニテ厳密ニ譴責シ且ツ教頭ヨリ特殊ノ許可アラサレハ彼ヲシテ当校在学中校地外ニ出ルヲ制禁スル事

小林氏ト伊藤（英太郎歟）氏ヲハ該校官員ト生徒ノ目前ニテ厳シク譴責シテ教頭ノ許可ナケレハ一ケ月間校地外ニ出ルヲ禁止シ千八百八十一年一月一日マテ試験中ニ置カレ若シ此時限中不正ノ所業アラバ放逐スル歟或ハ他ノ相当ナル罰則ヲ以テ責罰スヘキ事

毛受氏ト伊藤（鏗太郎歟）氏ヲハ該校官員ト生徒ノ目前ニテ厳密ニ譴責シ千八百八十一年春時学期四月ノ休業マテハ総テ該校トノ関渉ヲ中絶セシメ此時限終ルノ後身元請人ノ調印セル行状方正ノ証状ヲ出サシメ斯テ昇級セント欲スル等級ニテ学フ学科ノ試験ヲ受ケテ之ヲ径道スルヲ要セシメラレン事ヲ勧奨ス

前件参考ニ呈シ候条速ニ御允諾アラン事ヲ請求ス敬具

札幌農校教頭心得デイ、ピイ、ヘンハルロー手記

〔農一〇一〕

三九九　バチェラー、オブ、サイエンス相当の学位に関する回答

官学第百二号

英語之「バテロル、オフ、サインス」ハ当省於テ何等之学位ニ相当候哉云々第千〇六十八号去月三十日附ヲ以御問合之趣致承了候右ハ現今東京理学部中理学士ナル一学位之設有之候得共右ハ大学予備門＊四ケ年ノ課程ヲ卒リ而シテ本部ニ入リ更ニ四ケ年之課程ヲ履ミ一学

科ヲ修メ考試ヲ完フセシ者ニ授与候儀ニテ全然彼ニ準拠シテ其等位ヲ相定候儀ニ無之候ニ付彼「バチエロル、オフ、サイエンス」ハ我何等之学位ニ相当セル義御報難致殊ニ彼「バチエロル、オフ、サイエンス」ノ如キ其名ハ同シキモ之ヲ授与スル学校之品位優劣ニ由リテ甚シキ差等有之ニ付旁以是彼相当之義御答難致候条右宜ク御諒知有之度此段及御回報候也

明治十三年五月六日　官立学務局長文部少書記官浜尾新

開拓使書記官御中

＊　本庁ヘ御回答按ハ理学師ノ英訳相分リ次第取調可申候也

（印）（有岡）

〔道〇四四二六〕

四〇〇　舎則制定の儀伺

農第九十九号

校長㊞（調所）　農学校㊞（加藤）㊞（宮崎）㊞（長尾）㊞（いちごう）㊞（井川）㊞（加藤）

本校舎則別冊之通相定可然哉此段相伺候也

十三年五月十七日

〔別紙〕

舎則

第一条

一　校中諸規則ハ勿論臨時諸達ノ旨趣ヲ遵奉シ校中官員ノ命ニ背ク可ラス

第二条

一　校中ニ於テ疾走シ高声等総テ喧噪ノ挙動ヲナスヘカラス

第三条

一　外来人ハ予科生徒タリトモ私室ニ入ル可ラス消燈後ハ他人ノ室ニ入ル可カラス

第四条

一　帰校ノ時刻ハ午後八時ニ過ク可ラス事故アツテ帰校ノ期ニ後ルヽ者ハ其前校長宛願出可シ

但校員ノ方ニ到ルモノハ前以テ当直ニ届置キ帰校ノ節該員ノ証書ヲ差出ス可シ唯午後十時ヲ過クルヲ得ス

第五条

一　室内ヘ酒食ヲ入ル可カラス

第六条

一　臥床時間雑話等ヲナシ他人ノ眠ヲ妨クベカラズ

第七条

一　浴湯喫飯消燈等渾テ定時限ニ従フ可シ

第八条

一　官物及ヒ給貸品ヲ破毀遺失スル者ハ之レヲ償ハシムル可シ
但事情ニ因リ免スコトモアルベシ

第九条

一　凡犯則ト認ルトキハ軽重ニ因リ相当ノ罰ヲ科ス可シ

〔農一〇一〕

四〇一　永井於菟彦外五名退校の旨上申

地第廿九号

札幌農学校生徒退校之儀上申

札幌農学校官費生徒

永井於菟彦　山田　義容
伊藤英太郎　伊藤鏗太郎
毛受駒次郎　小林秀太郎

右永井於菟彦儀ハ本年二月中農学校園事務所江忍入リ官金盗取リ同四月三日其旨自首ニ付退校ノ上警察署江引渡シ山田義容外四人ハ校則ヲ犯シ品行ヲ紊シ自然校中ノ風儀ニモ関渉候ニ付本月十五日退校申付候此段上申候也

明治十三年五月二十日

開拓大書記官調所広丈

開拓長官黒田清隆殿

〔農〇九三〕

四〇二　六角砲貸与の件回答

第三百四十八号

農学校

屯田事務局印

一　六角炮　壱門

但付属品共

右ハ貴校生徒演習ノ為御貸渡可申旨了承就而ハ来ル廿八日午前十時銃器庫ニ於テ御引渡可致尤槊杖ハ予備モ無之候ニ付難応御需候間御新調相成候様有之度此段及御回答候也

十三年五月廿五日

札幌書記官印（鈴木）

〔農〇九二〕

四〇三　本草学及び地質学教師採用に付掛合

五ノ九拾六号

東京三等出仕

書記官

当地農学校教頭心得ペンハロー当学期後満期解任ニ付テハ本草学及地質学教師相欠ケ候処右ハ農学上緊要ノ学科ヲ兼ネ教授候者壱名雇入度候処成ル可クハ内国人中ヨリ右ニ適任之者採用致度見込ニ付長官殿ヘ稟議之末来ル九月初旬同校学科起業之節迄ニ赴任

相成候様御取計有之度若シ壱人ニテ両科ヲ兼ネ候者無之候ハヽ本草地質各科壱名ツヽニ相成候而も宜敷尤モ従来本邦ニテ称シ来リシ本草家ノ類ニテハ授業上差支有之候間植物性理上ニ練達セル者ヲ於其地普ク御尋相成度到底内国人ニ適応ノ者無之節ハ不得止外国人雇入之義伺出之都合モ有之候条其有無成丈至急御回答有之度此段及御懸合候也

十三年五月廿七日

農業叢談第弐号発兌候ニ付拾部御送付候間内務省へ納本等先規之＊通可然御取計相成度此段申添候也

＊　農業叢談第二号ハ公文係へ受取候配布方ハ例ノ通取計候也　㊞(足立)

〔道〇四四三二〕

四〇四　ペンハロー解雇後の化学教授に付申入

第七拾八号

千八百八十年六月十二日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

物理及ヒ現術化学科ニ於テ余カ後任ノ教官トナルベキ者撰定ノ義ニ付謹テ二三件ノ賢断ヲ仰カントス閣下曩ニ口頭ニテ報答アリシニハ宮崎氏ヲ当科ノ主任者トシ工藤氏ヲシテ補助タラシムヘキ旨ナリキ是レ農校ノ裨益ヲ計ルノ熱望ヨリ此書ヲ呈スル所以ナリ

工藤氏ヲシテ化学科ノ主任トシ其補助ニハ適応ノ者ヲ附属セシメラレンコトヲ謹テ勧告ス其故左ノ如シ

第一　六ケ年間聯邦ニ在テ学課ヲ経了シ得タル訓練ト特ニ高等化学術ニ従事セシト一般ノ学業及ヒ見聞ニ好機会ヲ得タルトノ故ヲ以テ二人中工藤氏ハ宮崎氏ヨリ遙カニ前述ノ位置ニ必適スベシ

第二　工藤氏ハ英語ニ通シ其思想ヲ述フル容易ニシテ宮崎氏ノ如ク英語ヲ話スノ困難ナル人ヨリ生徒ヲ教導スルニ必適シ其事項ヲ明亮ナラシムルヲ得ヘシ

第三　教官ニ切用ナル性質ハ熱執以テ生徒ヲ提進スルノ能力ニ在ル義ニテ特ニ此一点ノミヲ以テ論スルモ工藤氏ヲ撰挙スルハ他ノ候補ヲ択フヨリ遙カ賢トスルコトニ御座候

工藤氏ヲ騰用セハ農校ヲ裨補スルノ必然ナルハ他ノ教員ト共ニ確信スル所なり故ニ彼ヲシテ其任ニ当ラシムルニ尚高等ノ階級ヲ与ヘンコト必要ナラバ彼ヲ昇進セシメラレンコト亦タ余ガ謹テ勧奨スル所ナリ敬具

デイ、ビイ、ペンハルロー手記

〔道〇三八三一〕

四〇五　サマーズ条約書

明治十三年六月十三日即西暦一千八百八十年六月十三日日本開拓大書記官安田定則（以下第一方ト称ス）ト英国セームスサンマルス氏（以下第二方ト称ス）ト東京開拓使出張所ニ於テ結約スル条款左ノ如シ

第一条

第一方ハ明治十三年六月十三日ヨリ同十五年六月十二日マテ満二ケ年間第二方ヲ雇ヒ入レ北海道札幌農黌語学教師トス

第二条

第二方ノ給料ハ一ケ月銀貨百八拾円ト定メ毎月末日ニ請取ヘキ事

第三条

第二方ハ英語学教師ノ職ヲ務メ農黌長ノ命ヲ遵守シ農黌ノ諸規則及臨時布告ノ公令ニ従フベキ事

第四条

第二方ハ農黌ニ於テ定ムル休日ノ外私用ニテ已ヲ得ズ業ヲ廃スルトキハ其日数ノ給料ヲ引去ルヘシ若シ農黌長ノ許可ヲ乞ハスシテ随意ニ業ヲ廃スルトキハ其日ノ給料ヲ引去ハ勿論事情ニ因テハ期限中トヽ雖モ此条約ヲ廃スル権ヲ第一方ニ存ス且ツ期限中ハ直接間接ノ別ナク商賈ノ営業其他職務外ノ事ニ関係スベカラス

第五条

双方トモ止ヲ得サル都合ニ因リ解約セントスルトキハ三月前ノ報知ニテ廃約スルヲ得ヘシ第一方ヨリ此約定ヲ廃スルトキハ解約ノ日ヨリ向二ケ月間ノ給料ヲ第二方ニ渡スヘシ第二方ヨリ之ヲ請求スルトキハ現ニ在職日数ノ給料ノミ相払フモノトス

第六条

若シ本約定満期ノ後尚第二方ヲ雇続カントスルトキハ期限前ニ其事ヲ相示スヘキ事

第七条

赴任及職務上旅行ノ費用ハ総テ開拓使制定ノ外国人旅費規則ニ因テ給与スルモノトス且雇中ハ家具ヲ備ヘサル適宜ノ居室ヲ第二方ニ給スヘシ尤モ第一方ノ都合ニ因リテハ居室ニ代ルニ同上制定ノ規則ヲ以テ宿料ヲ給スルコトアルヘシ

第八条

職務上及其他ニ付建議セントスルトキハ必ラス書面ヲ以テ農黌長ヘ申出ヘシ

第九条

第二方ニ於テ雇中過失アルカ又ハ怠惰ナルカ凡テ忠実ニ其職任ヲ務ムルニ害アルヘキ行跡アルカ又ハ此約定書中ノ権ヲ犯ス等ノコトアルニ於テハ第一方ハ直ニ雇ヲ止メ翌日ヨリ給料ヲ給セサルノ権ヲ有ス

但此場合ニ於テハ約定上可得利益ノ権ハナキモノトス

第十条

第二方ハ此約定満期ノ後三月中ニ帰国スルトキハ本人ニ限リ任所ヨリ東京或ハ横浜迄ノ旅費ハ赴任ノ時ニ同ク夫ヨリ本国迄ハ上等船切手ヲ与フヘト雖トモ第二方ニ於テ該切手ヲ貨幣ニテ請求スルヲ得ス〔ママ〕

但解約後他ノ（日本国内ノ）雇ニ応スルトキハ三ケ月以内ト雖モ船切手ハ渡サヽルモノトス

第十一条

期限中第二方ニ於テ疾病又ハ災等ニテ負傷等ノ為メ二ケ月間引続キ授業シ能ハサルトキハ第一方ハ直ニ之ヲ解約スルノ権アルヘシ而シテ第二方ハ其残期限ニ対シテ本約定書ニ載スル給料或ハ他ノ利益ヲ得ル能ハサルモノトス尤モ直ニ帰国スルトキハ赴任所ヨリ東京或ハ横浜迄ハ赴任ノ時ニ同ク夫ヨリ本国迄ハ上等船切手ヲ与フヘシ若シ期限中死去スルトキハ其遺体及ヒ所有品並ニ当日迄ノ給料ヲ日本ニ在ル英国領事又ハ委托人ニ引渡スヘキコト

右条約ヲ遂ル為メ本書二通ヲ製シ上文記載ノ年月日各其名ヲ手記シ各壱通ヲ所持ス

開拓大書記官安田定則㊞

James Summers

〔サマーズ二〕

四〇六　ペンハロー後任としてフレッチェル採用願出の件

長官㊞　　十三年六月三日

三等出仕㊞（西村）　八等属有岡義国調㊞

書記官㊞（安田）㊞（金井）㊞（原）　記録課㊞（岡本）㊞（足立）

札第三百五拾弐号

札幌農学校教師後任云々ノ義ニ付札幌ヘ御照会候按

札幌書記官宛

米国ホストン府チヤーレス、アール、フレツチエル、ナル者其地農学校教師雇満期ノ者有之趣ヲ以其後任ニ採用相成度旨申出候義ニ付吉田臨時代理公使より別紙之通申越候処於其庁聘用スヘキ御見込有之哉モ難計ニ付写差進候条委曲右ニテ御了承相成度尤実際ノ都合御申越ノ否ニ依リ実地学力探偵方等吉田公使ヘ可及依頼と存候此段及照会候也

十三年六月十四日

追伸ヘンハロー氏後ハ宮崎工藤両人ニテ被弁候積之御見込ニ可有之哉難計候得共折角申越之旨モ有之候間本文之通申進候也

〔別紙一〕

当国ボストン府チヤーレス、アール、フレツチエルナル者今般貴使農学校教師雇満期ノ者有之趣ヲ以テ其後役ニ採用相成度旨願出候ニ付

未タ貴使ヨリハ右ニ付何等此通達之趣モ無之候得共出願ノ趣ハ追テ此通知可申置旨回答致置候依テ同人ヨリ差出候願書幷証書類写差進候尤当館ニ於テハ同人ノ学力其他ニ付別ニ取調候儀ニハ無之候此段得貴意候也

明治十三年四月廿一日　　臨時代理公使吉田二郎

開拓長官黒田清隆殿

追テ先般クラーク氏ヨリ差越候書翰中封入有之候砂糖見本先便取落候ニ付更ニ差進候右ハ此程種子御買入相成候琥珀甘蔗ヨリ製出候者ニ可有之存候也

〔別紙二〕

拙者ノ友人ニテ貴国札幌農学校ノ教師シー、エツチ、ピーボヂー氏ヨリ今般書面差越シ該校化学教師ペンハルロー氏儀約定満期之処同氏ニ於テハ継約ノ望無之ニ付今春後ハ貴国ニ滞留致間敷候就テハ拙者同氏ノ後役ニ相成候様貴下ヘ願出候方可然旨心付ケ来リ候依テ拙者右ノ儀願出候訳ニ有之候元来拙者儀ハ東京大学ニモ友人有之貴国ニ相越数年間教授致度願望罷在候当ボストン府ニテ拙者ノ位置如何ヲ示シ候数通ノ書面封入差進候如シ愈拙者御採用可相成節ハ御所望次第充分ニ拙者ノ何人タルヲ証明可致候拙者ハ化学ノ外仏国幷ニ当国ニ於テ充分ニ電燈術ヲ研究イタシ（仏国ヘ電燈術研究ノタメ千八百七十七年或ルボストン人ニ派遣セラレ候）電線術幷其建築及保持方法ヲモ熟知シ水雷術ヲモ詳知致居候尤右ノ件ニ付拙者ノ事ハ友人ニテロードアイランド州ニウポルト府ニアル合衆国政府ノ電術方博士フワーメル氏承知致居候又別紙中在ボストン府マサチユセツ芸術学館博士オルドウェー氏ノ書翰ニモ拙者金属幷其用法ニ通シ居候儀記載有之候且拙者現今ノ位置ニヨリ御推考相成候ハヽ拙者カ数年以前欧羅巴ニテ研究致候医術化学及農業化学ニ熟達致居候儀御承知可相成候拙者ハ右之通諸般ノ経験便益有之年齢殆ト二十七年ノ少壮ニ有之候尚別紙書類ノ原書ハ知州事ロング氏ノ手許ニ有之候ニ付如御所望ニ候ハヽ、差進可申候右之趣御懇慮有之度希望致候敬具

在ボストン府ボストン大学校医薬部化学講師
兼マサツチユセツ州金属試験方
チヤーレス、アール、フレツチエル

千八百八十年四月九日

日本国公使閣下

〔道〇四四三〇〕

四〇七　卒業証書授与式に関する件

第六拾五号

千八百八十年六月十五日札幌皇

開拓大書記官調所広丈閣下

御参考ノ為メ此書ヲ以テ七月七日執行スル卒業免状授与式ヲ告白セハ別紙ヲ刊行シテ聴衆ニ示サレント且ツ此式ヲ行フ堂ニハ国旗ト常

*

盤木ノ装飾ヲ施サレン事ヲ勧奨ス敬具

札幌農鬱教頭心得デイ、ピイ、ペンハロー手記

〔別紙〕

千八百八十年札幌農鬱初期卒業式

日本語演説

農ハ職業中ノ最モ有用最モ健全ナル最モ貴重ナルモノナリ

渡瀬寅次郎

英語演説

北海道ノ農業ヲ改良スルハ学術ヲ以テセサルヘカラス

内田　瀞

日本語演説

戦争ナケレハ勝利ヲ得ルナシ

大島　正健

英語演説

北海道ノ農業

小野　兼基

日本語演説

北海道殖民論

佐藤　昌介

英語演説

協同ハ以テ百事ヲ成スヘシ

荒川　重秀

千八百七十九年及ヒ千八百八十年ノ褒賞級第ノ報告

鎮台調所閣下ヨリノ特許状及ヒ褒賞

農鬱教頭心得デイ、ピイ、ペンハロー手記

＊　式場ノ位地其他時限等ニ至ルマテ詳明ナル手続書ヲ作リ略図ヲ添ヒ其書中ニ本案モ記入シ然ルヘキ事　印(鈴木)

〔農一〇一〕

四〇八　佐藤昌介黒岩四方之進校園係に採用の意見

第六十七号

千八百八十年六月十六日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

目下四年ナル佐藤昌介黒岩四方之進之両名各自卒業之后ハ校園係ヘ御採用相成度但シ甲ヲ取扱人ノ長トシ乙ニハ陰渠事業ヲ管理セシメ度予テ口頭御協議致置候儀モ有之ニ付余カ佐藤氏ヲ要スル理由ハ閣下多分御熟知可有之候得共黒岩氏ニ関シテハ尚数言ヲ述ヘサル可ラス同氏ハ全課程中最モ数学ニ英敏ニシテ且現術ニ聡明ナル力ヲ示シタレハ余カ所望スル事業ヲ実施スルニ於テ充分ノ能力アルヲ確信スル儀ニ御座候当国ニ陰渠ヲ設置スルヲ要スル地ノ無数ニシテ其事業ノ緊要ナルハ余カ言ヲ頗ヅ閣下ノ熟知セラル、所ナレハ右ノ事情篤ト御推考之上願意御許可相成度只管奉仰望候敬具

ウヰルリアム、ビー、ブルークス

〔道〇三八三一〕

四〇九　一期生各人の適性に付意見

第七拾四号

千八百八十年六月廿五日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

本年農校ノ卒業生ノ特殊伎倆ヲ報道スヘキ旨御談話ニ付雀躍左ニ報道シテ呈御参考候

荒川氏ハ最モ良キ実地ノ数学者ニ適応ナル者ニシテ既ニ道路設置等ニ従事シ実験ヲ経タレハ工業局間接セル土木ノ業ニ関予セシメハ貴重ノ人トナルヘシ

佐藤昌介氏ハ生徒トシテ特殊ノ良伎倆アリテ実地ノ伎倆ニ於テハ少シク欠クル所アリト雖トモ勉強力ニ抽ンスル事確実ナルヲ思想セハ尚其学術ヲ研究玩味シ之ヲ養成スル位置ニアラシメハ良ク其用ヲ辨スヘシ故ニ冀クハ農校ニ於ル農業掛ノ後任タラシメ而テ北海道ノ農益ヲ裨補セン事計画スル頭取タラシメハ本使ヲ補翼スル貴重ノ官員トナルヘシ

大島氏ヲ勧業課ニ用ヒハ実効アル一官員ニシテ同氏ヲ一般ノ監督トナシ農夫ヲ指揮セシメハ理財上ニ裨益アル適宜ノ方法ヲ教諭シテ当道一般ノ農業ヲ大ニ進歩セシムク加之（ママ）同氏ハ一生徒トシテ美性ヲ有セル実地伎術アリ

小野氏ノ化学実験ハ良キ伎倆アルト決行トニ因レハ化学及ヒ其他ノ方法ニ預ル技術一般ノ指揮ヲナスニ適良ナリ

各種ノ家畜及ヒ一般ノ農圃ヲ監督シ此取扱ヲ管掌セシムルハ内田氏ノ長技ナルカ如クニシテ実地ニ習熟セル所長ノ手ニ附属シ一二年モ実験セハ独立シテ事ヲ取ルニ至ラン

渡瀬氏ハ一二年果樹栽培ノ事ヲ実地ニ従事セシメハ自ラ之ヲ監督スルニ至ラン

前条ノ人々ヲシテ曩ニ陳フル業ニ従事セシメテ好機ヲ附与セラレンニハ之ヲ施行スル伎倆アル必然ナルヲ以テ之ヲ本使ニ勧奨ス

農圃ノ監督ヲ担任シテ北海道ノ当部落ニ於ル農夫ヲ裨補セシムヘキ者ハ佐藤勇氏恐ラク其適任ナル事必然ナラン

伊藤田内出田ノ数氏ハ一般ノ農事ニ干預セシメ且ツ常務ヲ扱フ官員トナシ用ヒハ裨補スルアラン

中島及ヒ柳元氏ハ常務ニ干預セシムル歟各種学術上ノ作業ニ預ラシムル士官ニ必適ス

黒岩氏ハ一個ノ生徒トシテ最モ佳良ノ伎倆ヲ有シ殊ニ数学ニ長セハ市郷氏ノ代ル教官トナシ予科生徒ニ数学ヲ教授セシメラレンヲ謹テ勧奨ス

此上等級中荒川氏ヲ除キ他ニ鉱山師トシテ適応スヘキヲ保証スルモ

ノ一人モナシ然ト雖トモ此次ノ級第生中ニハ伎長ノ指揮ニ従ヒ良ク之ヲ施行スルニ堪ユヘキモノアルヘシ敬具

札幌農校教頭心得デイ、ピイ、ペンハルロー手記

〔道〇三八三一〕

四一〇　農学校附属花園の樹木移植等に付意見

第七拾九号

千八百八十年七月一日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

去ル二年間装飾用或ハ木材用樹木ノ種子若干米国ヨリ到来セシヲ以テ農校附属ノ花園中ニ種芸セシニ客歳許多発芽シテ現今園中ニ数百株ノ嫩樹アルニ至レリ左ニ掲クル樹木モ亦其中ナリ

糖楓、ホニー・ロキユスト、アメリカン・エルム、蘇格蘭松、白松、及ビクノニース

尚其他セイーシオレンジノ嫩樹モ約二千株アリ此樹ハ元来当道ノ樹林ニ加ヘ貴重ナル木材ノ種類ヲ増殖スルノ目的ヲ以テ購入セシナリ此書中ニ述フル初発ノ五種ハ甚タ経済上ニ於テ値アルモノナルヲ熟慮アランヲ請フ

此樹木適良ノ大サニ至レハ速ニ此特殊ノ目的ニ供スルタメ土地ヲ区画シテ爰ニ移培シ斯ク栽培セル小林ヲ毎年増殖シ此地ヲ中央トシテ漸々当島各部ノ樹林ニ分配セン事ヲ謹テ勧奨ス若シ人民ヲ奨励シテ路傍ニ糖楓ヲ栽培セシメ春季其液汁ヲ煎煮シテ糖ヲ製スルヲ知ラシメハ人民ニ最良ノ業ヲ得セシムル疑ヲ容ルヘカラス

本草科ノ業ヲ担当スル教授拝命迄温室及ヒ園庭ハ現今ノ園丁沢田氏ヲシテ之ヲ監督セシメラレンヲ勧奨ス敬具

デイ、ピイヘンハルロー手記

〔道〇三八三一〕

四一一　フレッチェル不採用の旨吉田公使へ回答方依頼

七ノ四号

東京三等出仕

書記官　札幌書記官㊞（鈴木）

当地農学校化学教師ペンハロー雇満期相成候ニ付合衆国ボストン府チヤーレス、フレツチエルナル者其後任ニ相成度旨吉田公使へ申出之趣札第三百五十弐号御来意了承候得共ペンハロー離任後化学科教授之義ハ御用係宮崎道正同工藤精一ノ両人ニ担任為致別ニ外国教師ハ聘用不致見込ニ付吉田公使へ可然御回答有之度且五ノ九十六号ヲ以及御掛合候本草地質学教師ハ目下御人撰中トハ被存候得共本年九月初旬同校学科起業之時迄ニハ必ス採用致度候間若内国人ニ適当之者無之候ハヽ外国ヨリ聘用スルノ都合モ有之ニ付成丈至急ニ有無御

通報有之度回答兼此段申入候也

十三年七月二日

〔道〇四四三三〕

四一二　ペンハロー後任の本草学地質学教師雇入に付回答

札第四百号

札幌書記官　　東京三等出仕

書記官印

其地農学校教頭心得ペンハロウ氏当学期後解傭ニ付本草及地質学教師適応之者採用方五ノ九拾六号ヲ以御懸合之趣了承日本人ニ而使用之御目的ハ長官ニモ満足被致候事ニ有之精々応器之者ヲ得度ト存候得共目下両学科修熟之人ニ乏ク文部大学校ニ就而是非求度ト文部省へ其事由ヲ具ニ申演厚ク依頼候処本草地質ノ如キハ就中日本人ヲ教師ニ用候者至極好手段ニ有之趣賛成も有之然ル処本年ノ所ニ而者両科共卒業之者無之又在来之教員ヲ譲リ候義ハ何分繰合難相成トノ由尤モ明年七月ニ至レハ又タ卒業ス可キモノ有之候間其節ハ如何共可取計趣外国人雇入之義ハ見合可申旨長官下命之趣も有之其旨ハ略秘電報ニ而申進候通ニ有之仍而当分之処在来教員ノ内一時御繰合置相成度其内応器之者有之候ハヽ直チニ採用之運ヒニ無油断心掛居候得共差向ノ所前陳ノ次第故宜ク御領承有之度此段及回答候也

十三年七月六日

〔農〇九二〕

四一三　第二期の成績及び進級等の件

八十号

千八百八十年七月八日於札幌

開拓大書記官調所広丈閣下

前期当校本科及び予科生ノ階級幷ニ賞誉表ハ別紙ノ通ニ有之候条謹テ御検考ニ供シ候

〔注〕

右ノ表ニ掲クルガ如ク三年生三名ヲ除クノ外本科ノ諸生徒ハ都テ其試験ヲ都合よく経了セリ但し諏訪氏ハ秋期ノ再試験ヲモ経過スルヲ得ズ且ツ又前期ニモ二回マデ増加ノ試験ヲ要セル義ユヘ次期ノ初ニ於テ同氏ニ三題中少クモ二題丈ケノ試験ヲ満足ニ経過スベキヲ要求シ若し之ヲなし得ざるときハ同氏ニ退校ヲ命セラレ度是レ鬻官ノ薦告スル所ニ御座候

予科第二級生ハ都テ之ヲ第一級ニ其第三級生ハ東、寺家村及び山崎ヲ除クノ外第二級ニ進メラレ度薦告仕リ候

本科ニ入レヽガ為メ候補十七名ヲ試験セシ中九名ハ満足ニ其試験ヲ経過セリ仍テ右ハ本科生徒ニ御採用相成度候頭本、結城佐瀬中根志賀三増早川森〔毛利ノ誤カ〕及び山下是なり早川氏ノ英語点ハ低しと雖とも其他ノ

諸科皆甚タ好シ必ズ一良生徒タランコト我輩ノ確信スル所ニ御座候
第四年生ハ皆満足ニ其四年ノ課程ヲ終ヘ田内及び黒岩両氏ヲ除クノ外都テ再試験ヲモ排除セリ右両氏と雖ども更ニ金曜日ニ試験ヲ受ケベキ者ナレバ多分満足ニ経過スルナラン

デ、ピ、ペンハルロウ

〔注〕別紙を略す。

〔道〇三八三一〕

四一四　学位授与式等に付届

地第四十二号

札幌農学校学位授与式及本年度学期試験表其他ノ義御届

札幌農学校卒業生徒荒川重秀外十二名へ本月十日学位授与且本年度学期試験幷優等ノ姓名別表〔注一〕之通リニ候ニ付此段御届候也

明治十三年七月十三日　　開拓権大書記官鈴木大亮

開拓長官黒田清隆殿

〔別紙一〕

学位授与式順序

一　本日授与式ハ演武場ニ於而施行ス

一　午後三時上局督学課員及奏任官校員通常礼服着用参校

此際外庭ニ於而演武

一　午後四時上局以下式場ニ列ス

生徒日本語及英語演説

優等生徒ニ褒賞ヲ与フ

一　教頭順次ニ卒業生徒ノ姓名ヲ呼ヒ生徒ハ校長ノ前ニ進ム

一　校長学位ヲ授与ス

一　本庁長官祝詞

一　校長祝詞

一　教頭演説

一　午後七時ヨリ奏任官教師校員及卒業生徒ハ食堂ニ於而会食夜ニ入リ煙火ヲ演ス

〔別紙二〕

仮学位証〔注二〕状写

荒川　重秀
佐藤　昌介
大嶋　正健
小野　兼基
黒岩四方之進
渡瀬寅次郎
内田　瀞
佐藤　勇

伊藤　一隆
田内　捨六
出田晴太郎
中嶋　信之
柳本　通義

札幌農学校ニ於而定規ニ遵ヒ其業ヲ卒ヘ考試ヲ経テ科第ニ登ル乃チ授ルニ農学士ノ位ヲ以テス因テ印ヲ鈐シテ永ク其令名ヲ証ス

校長
開拓大書記官従五位調所広丈

明治十三年七月十日

教頭心得
得業士デ、ビ、ペンハルロウ

札幌農学校長ノ申稟ヲ領シ印ヲ鈐シテ之レヲ証ス

開拓長官正四位勲一等黒田清隆

〔注一〕別表を略す。

〔注二〕八月一〇日付でこの仮学位証と同じ学位証が太政官へ上申された〔公文録二七二四〕。

〔農一〇一〕

四一五　頭本元貞外八名貸費生申付の儀伺

農第七十九号

上局㊞（鈴木）　農学校㊞（森）㊞（加藤）

本年本科初年生徒入学試験当地ニ於テ及第候者別紙之通リニ候間貸費生徒申付候様仕度左ニ辞令案相添此段相伺候也

十三年七月十九日

〔別紙〕

頭本　元貞
各　結城　祥吾
佐瀬辰三郎
中根　寿
志賀　重昂
通　三増久米吉
早川　鉄弥
毛利鶴次郎
山下敬太郎

貸費生徒申付候事

月　日

札幌農学校

〔農一〇一〕

四一六　卒業生の奉職義務に関する誓約書案（七月）

加藤五等属調㊞（花押）

上局㊞（鈴木）　農学校㊞（森）

明治九年本校専門科ヲ開設セシヨリ玆ニ四年其間費ス所ノ経費拾五万三千七百五拾五円三拾銭〇五厘（紙幣十万三千五百六拾三円三十七銭八厘金貨三万九千四百十八円弐拾七銭九厘銀貨壱万〇七百七拾三円六十四銭八厘外ニ洋銀拾三弗）ノ巨額ニ至ル就中諸建築及書籍器械等ノ購求ニ係ルモノ亦少カラスト雖トモ之レヲ要スルニ皆学生ヲ養成スルカ為メニ費ス所ニ外ナラス

専門科開業以来諸子卒業ノ日迄費ス所ノ教師俸給各自ノ給料（旅費患者費共）ヲ合算スレハ七万七千九百四拾円拾七銭七厘（金貨銀貨紙幣共）之レヲ生徒ノ員数ニ分割シタル金額ハ乃チ諸子ニ関スル直接ノ費用目下各自ノ負債ニシテ奉職五年ノ後ニ至リ始テ消却スルヲ得ル者トス故ニ此期限内ニ自己ノ都合ヲ以テ其職ヲ辞スルトキハ残余ノ月数ニ比例シ其金額ヲ辨償ス可キハ固ヨリ論ヲ待タス是レ此誓書ヲ要スル所以ナリ

夫レ諸子ノ農黌ニ在ルヤ教師ヲ海外ニ聘シ書籍器械ヨリ衣服飲食ニ至ル迄凡ソ教育ト生活トニ関スル一切ノ費用ヲ仰キ遂ニ各科ノ学術ヲ卒ヘ儼然一学士ト為ルニ至ル其恩沢ニ浴スル厚ク且大ナリ苟モ本校ノ卒業生タル者其職ニ勉励シ其義務ヲ尽シ以テ本使ニ報酬スル所以ヲ思ハサル可ケンヤ此誓書ヲシテ他日要用ノモノト為サシムルカ如キハ諸氏ニ望マサル所ナリ

〔別紙〕

誓約書草案

私儀札幌農学校ニ於テ卒業候上ハ入学ノ節誓約候通リ五年間誓テ本使ニ奉職可致ハ勿論ニ候得共万一右期限内ニ自己ノ都合ヲ以テ辞職候節ハ該校在学中ノ費用別記書載ノ金額（金何円、、ノ㊞（森））ヲ全五ケ年間ノ月数ニ除シ右期限未満ノ残月数ニ乗シ返納可仕此段更ニ誓約仕候事

明治十三年七月　　保証人　何ノ誰　印

本人　何ノ誰　印

開拓大書記官調所広丈殿

＊　〔朱書〕「改正案」

私儀札幌農学校ニ於而卒業候上ハ入学之節誓約候通リ五ケ年間誓而本使ニ奉職可致者勿論ニ候得共万一右期限内ニ自己之都合ヲ以て辞職候乎又ハ懲戒令ニ依リ免職相成候節者該校在学中一身ニ係ル費用（金貨、、、銀貨、、、紙幣、、、）ヲ全五ケ年間ノ月数ニ除シ右期限未満之残月数ニ乗シ返納可仕此段更ニ誓約仕候事　㊞（加藤）

＊＊　免職ノ種類

一　懲戒令ニ依リ免職　〔朱書〕「〇」

一　廃庁等ニ而廃官

一　自己ノ都合ヲ以テ辞職　〔朱書〕「〇」

一　長官ノ説論ニ依リ辞職

一　疾病六ケ月以上ニ至リ定規ニ依リ辞職　〔朱書〕「〇印ハ弁償ス可キ分其他ハ弁償ニ及ハス」

付　荒川重秀外二名負債金額内訳[注]（七月）

荒川重秀　小野兼基　伊東一隆

右三名負債ス可キ金額別紙甲号之通リニ候也

〔別紙〕
〔朱書〕
「甲」

一　金六拾六円六拾六銭七厘

明治六年四月廿一日ヨリ支給金壱ヶ月壱人金八円ツヽ、十二月迄合
金如此

一　金九拾六円

同七年一月ヨリ十二月迄ハ金八円ツヽ、十二ヶ月分如此

一　金百〇四円七拾壱銭

同八年一月ヨリ八月廿日迄ハ金八円八月廿一日ヨリ十二月迄ハ金
拾円ノ割如此

一　金六拾円

九年一月ヨリ六月迄金拾円ツヽ如此

〆金三百弐拾七円三拾七銭七厘

明治九年度

一　金百〇六円八拾九銭七厘　支給患者

是ハ九年七月より十年一月迄ハ生徒現員拾八人ニ付七ヶ月分如此
但壱人壱ヶ月金拾五円弐拾七銭壱厘

一　金八拾五円九拾銭五厘　同断

是ハ十年二月より同六月迄現員拾六人ニ付五ヶ月分如此但壱人壱
ヶ月金拾七円拾八銭壱厘

一　金貨四百五拾円八拾八銭五厘　教師給料

是ハ九年七月より十年一月迄七ヶ月間壱人分如此但壱ヶ月壱人金
六拾四円四拾壱銭弐厘弐毛

一　金貨三百六拾弐円三拾弐銭四厘　同断

是ハ十年二月より六月迄五ヶ月間拾六人割壱人分如此但壱ヶ月壱
人金七拾弐円四拾六銭五厘

〆

金百九拾弐円八拾銭〇弐厘

金貨八百拾三円弐拾銭〇九厘

十年度

一　金八拾五円弐拾弐銭八厘　生徒給料患者費

是ハ十年七月より十一月迄ハ現員三拾四人ニ付五ヶ月間壱人分如
此但壱人壱ヶ月金拾七円〇四銭五厘五

一　金五拾弐円六拾八銭六厘　同断

同十年十二月より十一年二月迄三ヶ月間ハ現員三拾三人壱人壱ヶ
月金拾七円五拾六銭弐厘

一　金七拾弐円四拾四銭三厘　同断
是ハ十一年三月より六月迄四ヶ月間ハ現員三拾弐人壱ヶ月壱人金
拾八円拾壱銭〇八毛

一　金貨九拾九円七拾三銭九厘　教師給料
是ハ十年七月より十一月迄五ヶ月間現員三拾四人但壱ヶ月壱人金
拾九円九拾四銭八厘

一　金貨六拾壱円六拾五銭七厘　同断
是ハ十年十二月より十一年二月迄三ヶ月間ハ三拾三人割但壱人壱
ヶ月金弐拾円〇五拾五銭弐厘四毛

一　金貨八拾四円七拾七銭八厘　同断
是ハ十一年三月より六月まで四ヶ月間ハ三拾弐人割壱人壱ヶ月金
弐拾壱円拾九銭四厘五六

〆
金弐百拾円〇三拾五銭七厘
金貨弐百四拾六円拾七銭四厘

十一年度

一　金百八拾円〇弐拾銭〇弐厘　支給
是ハ十一年七月より十二年六月迄十二ヶ月間ハ現員四拾七人割壱
ヶ月壱人金拾五円〇壱銭六厘八三三

一　金貨弐百五拾八円五拾壱銭壱厘　教師
同断但し壱人壱ヶ月金弐拾壱円五拾四銭弐厘五五之割

一　銀貨三拾弐円七拾七銭三厘　同断
同断但し壱人壱ヶ月金弐円七拾三銭壱厘〇七五之割

〆
金百八拾円〇弐拾銭〇弐厘
金貨弐百五拾八円五拾壱銭壱厘
銀貨三拾弐円七拾七銭三厘

十二年度

一　金八拾壱円三拾銭　支給患者費共
是ハ十二年七月より同十二月迄六ヶ月間ハ四拾七人割壱人壱ヶ月
金拾三円五拾四銭九厘九五七

一　金四拾壱円五拾三銭四厘　同断
十三年一月より三月迄三ヶ月間ハ四拾六人割壱ヶ月壱人金拾三円
八拾四銭四厘五二

一　金弐拾八円三拾銭〇四厘　同断
十三年四月より五月迄四拾五人割壱ヶ月壱人金拾四円拾五銭弐厘

一　金拾五円五拾三銭三厘　同断
十三年六月ハ四拾壱人割壱ヶ月壱人金如此

一　金貨五拾五円四拾八銭六厘　教師給料
是ハ十二年七月より同十二月迄ハ四拾七人割壱ヶ月壱人金九円

弐拾四銭七六五四

一　金貨弐拾八円三拾五銭　同断

是ハ十三年一月より三月迄三ヶ月間ハ四拾六人割壱ヶ月壱人金九円四拾四銭九厘八六四

一　金貨拾九円三拾弐銭　同断

是ハ十三年四月より五月迄ハ四拾五人割如此

一　金貨拾円六拾銭弐厘　同断

是ハ十三年六月分ハ四拾壱人割如此

一　銀貨九拾八円弐拾弐銭六厘　同断

是ハ十二年七月より十二月迄六ヶ月間ハ四拾七人割壱人壱ヶ月金拾六円三拾七銭壱厘

一　銀貨五拾円拾八銭壱厘

是ハ十三年一月より三月迄三ヶ月ハ四拾六人割壱ヶ月壱人金拾六円七拾弐銭六厘九五六

一　銀貨三拾四円〇弐銭　同断

是ハ十三年四月より五月迄ハ四拾五人割壱ヶ月壱人金額如此

一　銀貨拾八円七拾六銭七厘　同断

同六月ハ四拾壱人割壱ヶ月壱人金額如此

〆

金百六拾六円六拾七銭壱厘

金貨百拾三円七拾五銭八厘

銀貨弐百〇壱円拾九銭四厘

四ヶ年惣計

金七百五拾円〇〇三銭弐厘

金貨千四百三拾壱円六拾五銭弐厘

銀貨弐百三拾三円九拾六銭七厘

此外

金三百弐拾七円三拾七銭七厘

六年四月ヨリ九年六月迄合金

〔注〕佐藤勇、佐藤昌介外八名の金額が記されている付属書を略す。なお、佐藤勇の負債金は七年九月一二日より一三年六月迄、佐藤昌介外八名は九年七月より一三年六月迄の金額である。

〔農一〇四〕

四一七　貸費生徒契約書奥書の儀に付照会

第一万千九百五十二号

今般御使札幌農学校ニ於テ貸費生徒召募相成候ニ付該契約書江奥書之儀書式相添御照会之趣了承然ルニ本管人民タルヲ証スル迄之奥書ニ候得者敢而差支筋無之候得共人民之契約書ニ対シ証明候儀ハ難相

成儀ニ候条御更正相成候様致度別紙書式相添此段及御照会候也

明治十三年八月三日　　東京府書記官

開拓書記官御中

〔別紙〕

本人契約書

私儀今般札幌農学校貸費生トシテ入学被差許候ニ付テハ御規則堅ク相守可申且卒業後ヨリ月々金拾八円ツヽ[注]月賦ヲ以貸与ノ金額無相違返納可仕若シ又国法或ハ校則ヲ犯シ或ハ渋鈍ニシテ学才ニ乏キノ故ヲ以退校被申付候節ハ在校中ノ貸費速ニ会計係ヘ返納可仕事

府県国郡区町村番地華士族平民子弟

年号　月　日　　何ノ誰　印

札幌農学校々長

開拓大書記官調所広丈殿

保証人契約書

生徒誰某義札幌農学校ヘ入学御差許相成候上ハ私儀其保証人ト相立同人ノ開拓使ニ誓ヒタル条款ハ之ヲ誠実履行為致可申責ニ任シ将又同人ヨリ金員上納可致モノ有之淹滞候節ハ速ニ私ヨリ其負債金額ヲ本校会計係ヘ上納可仕段契約仕候仍テ如件

府県国郡区町村番地華士族平民

月　日　　姓名　印

宛名（前ニ同シ）

別紙誓書ノ趣相違無之候条右何某儀入校御差許可然ト存候也

年月日　　府県長官　印

〔注〕一四年八月入学の貸費生契約書には、「拾弐円」と記載されている。

〔道〇五九〇九〕

四一八　教頭心得承諾の旨通知

第九拾九号

千八百八十年八月六日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

黒田閣下ヨリ余ヲ札幌農黌教頭心得ニ命セラレタル旨本月五日附貴翰ヲ以テ御達之趣了承御下命謹テ御請申上候也

札幌農黌農学博士ウヰルリアム、ピー、ブルークス

〔農〇九〇〕

四一九　貸費生札幌へ出発の旨申入

札幌学務局　　東京記録課印

今般召募相成候農学校貸費生徒之義ペンハロー氏出京之上試験ヲ遂ケ及第候者別紙人名書之通今回玄武丸便ヨリ出発為致候尤保証書奥書之儀ニ付東京府ヨリ照会之次第モ有之取纏兼候間渾而書類者後便差回可申ニ付右御了知相成度此段不取敢申進候也

十三年八月六日

追而本人旅費者自辨之筈申談済ニテ函館迄乗船賃者当地於テ為仕払置候為念申添候也

〔別紙〕

〔朱書〕「点数ハ六百ヲ以テ基本トス」

五百六十九点	渡瀬庄三郎
五百二十四点	岡　文二
四百九十二点	細川文五郎
四百八十一点	武信由太郎
四百七十五点	福原鉄之助
四百七十五点	河村九淵
四百七十三点	手島十郎
四百六十四点	小山鉄也
四百四十七点	中川太郎
四百四十四点	本土源二郎
四百二十二点	菊池熊太郎

〆拾壱名

〔農〇九二〕

四二〇　ペンハロー解雇の儀上申

乙第九拾弐号

外国人解雇ノ義上申

当使雇札幌農学校教師米国人ダウイツト、ピ、ペンハロウ義本月十九日ニテ雇満期ノ処双方ノ都合ニ拠リ去六日解雇候条此段上申候也

明治十三年八月十日　　開拓長官黒田清隆　印

太政大臣三条実美殿

〔公文録二七二四〕

四二一　ブルックス本草学教授兼務に付増給の件申入

東京西村　　調所

秘本草学教師ノ義ハ御来意ノ趣不得已義ニ付教師ブルークスへ非常ノ談判ヲ遂ケ繰合セ明年文部省ニ於テ卒業ノ者採用迄ノ間一期丈ケ強テ教授サスル積リ因テ月々紙幣三拾円ツヽ手当致置追テ雇継ノ節銀貨三百円ニ引直シ度見込ナリ長官へ稟議アレ

十三年八月十一日

付　右に付回答

十三年八月十四日

調所　　西村

秘ブルークスへ手当等ノ義伺ノ通イツヨリ支給スルヤ太政官上申ノ都合アリ申越セ且同人ハ必用ノ者故成丈雇継ヘキ旨長官ノ指令

〔道〇四五一六〕

四二二　カッター申出の書籍購入に付依頼[注]

校第弐百弐十壱号

外事課　　札幌農学校

カッター氏申出之書籍買入之儀別紙写之通伺済ニ付注文方其筋へ御運ヒ相成度書籍目録相添へ此段及御掛合候也

十三年八月十一日

〔別紙〕

十三年度外国品購求見積書　　札幌農学校

書籍類

明治十四年三月入用

一	エレクチング雑誌 但千八百七十八年ヨリ千八百八十年ニ至ル合冊布綴	壱冊
一	ハーパアース雑誌 但同断	壱部
一	同断目録 但布綴	壱部
一	パツカード(エ、エス)動物学 但五百五十葉モノ、エツチ、ホールド社中	廿五部
一	ウオルカース(エフ、エ)経済学 但同社中	壱部
一	米国著述家アンダルウード文学必携 但リーゼバード社中	廿五部
一	マアシアルス性理学 但八百葉モノ　エツチ、クリキ	壱部
一	コツドキン政治学 但エツチ、ホールド社中	壱部
一	セイント、ニコラス雑誌 但スクリプテル	壱部

凡積代価合金百六拾円

此米金百弗　　但壱弗ニ付金壱円六十銭ノ見込

此品ハ科業読本用

〔注〕末尾に「別紙伺済農第八十八号ハ取裁録ニアリ」との朱書あり。

〔農〇九四〕

四二三　本草園に関する権限委任に対する請書

千八百八十年八月十九日札幌呈

開拓大書記官調所広丈閣下

札幌農学校附属ノ温室幷地所ノ全権ヲ委ネラレ予算定額金ヲ以管理セシムル旨ノ貴翰正ニ領収御委任之件承諾仕候右御請迄申述度此段謹テ記名ス敬具

札幌農学校農業博士ウヰルリアム、ピー、ブルークス

〔農〇九〇〕

四二四　予科生徒招募に付各局へ通知の件伺

農第九十六号

校長㊞（調所）　農学校㊞（森）㊞（加藤）㊞（加藤）

予科生徒召募ニ付別紙之通リ各局江広告仕度此段相伺候也

＊　十三年八月廿日

〔別紙〕

今般当校ニ於テ予科生徒召募小学三級前期卒業位ノ学力有之者ハ入学差許候間諸官員子弟中志願ノ者ハ本月廿六日限願出候様御達相成度此段及御通知候也

十三年八月廿日

札幌農学校㊞

屯田事務局㊞（山本）

記録局　㊞（氏家）

民事局　㊞（森）㊞（結城）㊞（加納）㊞（小林）㊞（佐瀬）

会計局　㊞（栗原）

工業局　㊞（杉山）

物産局　㊞（鵜目）

刑法局　㊞（中山）

煤田開採事務係㊞（柳田）㊞（上田）

病院　㊞（吉田）

早々順達周尾ヨリ御返却之事

＊　〔朱書〕「官員子弟ノミニ限リ候哉」〔注〕

〔注〕八月二三日に、札幌新聞に予科生募集の広告を掲載する伺が認められた。

〔農一〇一〕

四二五　宮崎道正加藤重任の権限に付上申

宮崎道正外一名権理之儀上申

宮崎　道正

加藤　重任

右両名ハ農学校本科教授上ニ於テ御雇教師同等ノ権理ヲ有シ候様諸

教師ヱ御達シ相成度此段上申候也

明治十三年八月廿日　　開拓権少書記官森源三 印

開拓大書記官調所広丈殿

〔農一〇一〕

四二六　貸費生徒の食物その他改正の儀伺

農第九拾七号

上局 印(調所) 印(鈴木)　　農学校 印(森) 印(加藤) 印(加藤)

貸費生徒ハ月額ヲ金九円ト相定メ且官費生徒ニ比スレハ衣食其他支給之物品も随而節減セサルヲ得ス因而食物之義者官費生者従前之通リ洋風之食ヲ用ヒ貸費生者和食為致候見込ニ有之候処同一之校中ニ而二様之食物ヲ調理候モ却而煩雑之至リニ付官費貸費共ニ洋風之食物ニ相改度又貸費生衣服之義者当分農業服及日本服之二種ヲ給与シ演武幷農業現術等之節ハ農業服ヲ服シ平常者日本服着用候様仕度然ルニ客歳貸費生徒学資取調候時ニ比スレハ物価逐々騰貴且食物も前条之通リ相改メ候ニ付最初計算候定額九円ニ而者迚も相支兼候哉ト被考候得共果シテ支ヘ得サルヤ否ヲ実際ニ相試ミ愈不足ヲ生スル時ハ更ニ取調伺出候様仕度此段相伺候也

明治十三年八月廿一日

〔農一〇二〕

四二七　校園用器具薬品等購入の件

園第七十九号

外事課　　農鬻園 印

当園須要之農具十三年度ヲ以而増購入可相成分別紙調書之通有之即チ差進候条可然御取扱相成度候也

十三年八月廿三日

〔別紙〕

十三年度外国品増購入調〔注〕　　農鬻園

一　ブルートス草刈鎌　三十四寸ノモノ　三ドーゼン　但牧草及雑草刈取用
此代洋銀三拾六弗　但壱弗ニ付金壱円五十銭換
此紙幣金五拾四円　但壱ドーゼン金拾八円

一　コルリン商社柄附エキセルシヨン斧　一ドーゼン　但伐木用
此代洋銀拾六弗　但同
此紙幣金弐拾四円

一　鋸　壱挺　但伐木用
但ホワイトマン農業用滑走卓木挽器械
此代洋銀拾弗　但同
此紙幣金拾五円

一　レイド氏専売第三号製酪器　壱個　但バタ製造後バタ中ニ残リタル乳ヲ別タシムルニ用ユ

此代洋銀六弗　但同
此紙幣金九円

一　ホツケイ氏新式A号モーウル用第七百四十五号歯刀　一ドーゼン　但牧草刈方ニ用ヒ

此代洋銀弐弗　但同
此紙幣金三円

一　レウキクス氏改良蕃薯鼠姑滅殺及農業水銃　半ドーゼン　是ハ害虫ヲ殺スニ用ユ

此代洋銀三弗半　但同
此紙幣金五円廿五銭

一　テイロル氏馬耙歯　六個　但牧草其外採集ニ用

此代洋銀弐弗　但同
此紙幣金三円　但壱個金五拾銭

一　アーメ氏第二号D形柄附円頭鏟　半ドーゼン　但土地[豚カ]糞ヲ動スニ用ユ

此代洋銀七弗半　但同
此紙幣金拾壱円廿五銭

一　同　角頭同断　半ドーゼン　但書前ニ同

此代洋銀七弗半　但同
此紙幣金拾壱円廿五銭　但壱ドーゼン金廿二円五十銭

一　晒サヽル最上木綿　幅五十四寸　三百碼　但乾草蓋ニ用

此代洋銀五拾弗　但同
此紙幣金七拾五円　但百碼　金廿五円

肥料ノ部

一　消酸加里　四百磅

此代洋銀三拾四弗　但同
此紙幣金五拾壱円　但百磅金拾弐円七拾五銭

一　シユツペル、フオスフエード　四百磅

此代洋銀九弗　但同
此紙幣金拾三円五十銭　但百磅金三円三十七銭五厘

一　硫酸苦土[ママ]　二百磅

此代洋銀壱弗　但同
此紙幣金壱円五十銭　但百磅金七拾五銭

一　硫酸加里　二百磅

此代洋銀六弗半　但同
此紙幣金九円七拾五銭　但百磅金四円八十七銭五厘

一　塩化加里　二百磅

此代洋銀五弗　但同
此紙幣金七円五拾銭　但百磅金三円七十五銭

一　消酸曹達　四百磅

此代洋銀拾六弗　但同
此紙幣金弐拾四円

一　硫酸譜謨尼亜　　但百磅金六円
此代洋銀九弗半　但同　　二百磅
此紙幣金拾四円廿五銭

殺虫薬ニ用ノ部

一　倫敦紫　　但百磅金七円拾弐銭五厘
此代洋銀廿五弗　但同　　二十磅
此紙幣金三拾七円五十銭

一　巴理緑　　但百磅金百八拾七円五十銭
此代洋銀八弗　但　　五磅
此紙幣金拾弐円　　但百磅金弐百四拾円

価格概算

総計洋銀弐百五拾四弗半　但壱弗金壱円五十銭換
此紙幣金三百八拾壱円七拾五銭

〔注〕別紙冒頭欄外部分に「十三年十二月用大関へ噺シ取極ム」との記事あり。また目録の品目中「倫敦紫」及び「巴理緑」の部分の欄外に「虫ヲ殺ス毒」との朱書あり。

〔道〇三八二八〕

四二八　第一期授業時間割提出の件

千八百八十年八月二十五日札幌ニ於て呈

札幌農学校々長調所広丈公閣下

教頭心得ウヰルリアム、ピーブルツクス

余謹而是書ヲ呈シ本月二十六日始業学期中札幌農学校及予備科諸級ノ学課ノ順序ヲ閣下ノ閲覧ニ供セント欲ス

〔別紙〕

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

札幌農学校第四年生学課

	午前					午后二時ヨリ三時マテ
月曜日	八時半ヨリ九時半マテ	九時半ヨリ十時半マテ	十時半ヨリ十一時半マテ	十一時半ヨリ十二時半マテ	午后二時ヨリ三時マテ	
火	教師ピーボジー 物理学	教師ブルツクス 農学	教師カッタル 歴史	教師工藤 地質論	教師加藤 兵学	教師カッタル 顕微鏡論
水	同	同	同	教師ピーボジー 簿記法		同
木	同	同	同	教師工藤 地質論		同
金	同	同	同	同		同
土	同	同	同	同		同

金	同	討論 同	地質論	同	
土	同	教師工藤 地質論	同	簿記法	同

農園実際ノ稽古ハ時ノ指揮ニ従フベシ

教頭心得ウヰルリアム、ピー、ブルツクス

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

札幌農学校第三年生学課

午前	月曜日					
八時半ヨリ九時半ニ至ル	教師ブルツクス	菓物培養	動物論	星学	英学	兵学	測量及製図実地稽古
九時半ヨリ十時半マテ	教師カツタル	菓物培養	動物論	星学	英学	兵学	
十時半ヨリ十一時半マテ	教師ピーポジー	植物論	同	地理製図	同	同	同
十一時半ヨリ十二時半マテ	教師カツタル	菓物培養	同	星学	同	同	
午后二時ヨリ同三時マテ	教師加藤	植物論	同	地理製図	同		
午后二時ヨリ五時マテ	教師ビイボジー	菓物培養	同	星学	同		
		植物論	同	地理製図			

教頭心得ウヲルリアム、ピーブルツクス

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

札幌農学校第一年生学課

午前	月曜日					
八時半ヨリ九時半マテ	教師宮崎	化学	同	同	同	同	同
九時半ヨリ十時半マテ	教師ピーポジー	代数学	同	同	同	同	同
十時半ヨリ十一時半マテ	教師ブルツクス	農学	同	同	同	同	同
十一時半ヨリ十二時半マテ	教師サンマルス	英学	同	同	同	同	同
午后二時ヨリ四時マテ	教師加藤	兵学	同	同	同		
午后二時ヨリ五時マテ	教師ブルツクス	農業	同				

教頭心得ブルツクス

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

予備科第一級

午前	月曜日					
八時半ヨリ九時半迄	教師サンマルス	英学	歴史	算術	市郷君 素読、習字	作文、
九時半ヨリ十時半迄	教師工藤					
十時半ヨリ十一時半迄	市郷君					
十一時半ヨリ十二時半迄						

農業実地稽古ハ時ノ指揮ニ従フヘキコト

札幌農学校教頭心得ウヰルリアム、ピー、ブルツクス

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

予備科第二級

午前	月曜日					
八時半ヨリ九時半マテ	地理書	井川君	英学	教師サンマルス	和漢学	長尾君
九時半ヨリ十時半マテ	英学	教師サンマルス	素読、綴字	教師工藤	算術	市郷君
十時半ヨリ十一時半マテ	素読、綴字	教師工藤	習字	井川君	和漢学	長尾君
十一時半ヨリ十二時半マテ	習字	井川君	和漢学	長尾君	算術	市郷君
	和漢学	長尾君	算術	市郷君	素読、作文、習字	同
	算術	市郷君	素読、作文、習字	同	歴史	教師工藤
	素読、作文、習字	同	歴史	教師工藤		
	歴史	教師工藤				

月曜日	火	水	木	金	土
地理書	同	同	同	同	同
英学	同	同	同	同	
素読、綴字	同	同	同		
習字	同	同			
和漢学	同				
算術					

札幌農学校教頭心得ウヰルリアム、ピー、ブルツクス

千八百八十年ヨリ千八百八十一年ニ至ル第一学期

予備科第三級

午前	月曜日					
八時半ヨリ九時半迄	算術	市郷君	和漢学	長尾君	和漢学	長尾君
九時半ヨリ十時半迄	素読、綴字	教師宮崎	習字	井川君	習字	井川君
十時半ヨリ十一時半迄	英学	教師サンマルス	和漢学	長尾君	和漢学	長尾君
十一時半ヨリ十二時半迄	和漢学	長尾君	習字	井川君	習字	井川君
	習字	井川君	素読、綴字	教師宮崎	算術	市郷君
	算術	市郷君	英学	教師サンマルス		

月曜日	火	水	木	金	土
算術	同	同	同	同	同
素読、綴字	同	同	同	同	
英学	同	同	同		
和漢学	同	同			
習字	同				

教頭心得ウヰルリアム、ピー、ブルツクス

〔農一〇一（ブルックス五二）〕

四二九　サマーズ本科教授並に予科教員に任命の件

第百拾七号

明治十三年八月廿五日札幌

札幌農学校語学教師ゼームス、サンマルス貴下

今朝口頭及御談話置候通リ貴下ヲ札幌農学校本科教授幷予科教員ニ任候教授上委細之義ハ教頭心得ウヰルリアム、ピー、ブルークスヨリ可致御通達候御承諾之上ハ請書御差出可有之此段申入候也

農学校々長開拓大書記官調所広丈

〔道〇三八三一〕

四三〇　卒業生差廻しに付回答

校第弐百三拾六号

七重試験場湯地少書記官　札幌農学校森権少書記官　印

其地人民農業逐年開進候ニ付而者新タニ施行ス可キ事業も有之又種々之質問等ヲ辨解シ貴場在育之現術生徒ヲ教育スル等之為め当校卒業生ノ内荒川重秀佐藤昌介貴場為在勤可差廻旨第六百六拾八号ヲ以縷々御依頼之趣了承候得共同人共者兼而教師より申立候義も有之当地ニ於而已ニ採用可相成ニ付何分御需要ニ応し兼候間不悪御承知相成度依而同人共ニ代リ御請求之任ニ堪ニ可キ者人撰候処小野兼基者性質温和其学力も亦荒川佐藤ニ不相譲伊藤一隆者先般教師ブルツクスニ従ヒ其地方ヲ巡視し実際之景況等承知致居候ニ付右両人ヲ其地江可差廻見込ニ候得共両人とも帰省中ニ付帰札之上御廻し致し尚其節委曲可申進候間右御承知相成度廻答兼此段申進候也

十三年九月一日

〔農〇九四〕

四三一　第一回卒業式の状況

THE AGRICULTURAL COLLEGE, SAPPORO.

Ex-President Clark has received the following letter from Japan:

The first celebration of the academical course of four years, was held on the 10th of July instant, in the Agricultural College, Sapporo, Hokkaido.

The college has now been in active operation for four years, and was established by the Kaitakushi, who quickly recognized the necessity of training for their service, men who possessed special qualifications for aiding in the development of the Hokkaido. The importance of having these men educated near the scene of their future labors, in order that they might become fully acquainted with the natural resources of the country, and learn in the most thorough manner, how to properly develop them and overcome attendant difficulties, led to the abandonment of the

former policy of sending students abroad. The establishment of a college in Hokkaido, for the express purpose of educating men with a view to their employment as officers for special work in the department, then followed as a matter of course.

After a careful examination of the various institutions of similar character in other countries, the Agricultural College at Amherst, Massachusetts, was selected, as the model, and its president and two graduates were appointed to found a similar institution at Sapporo.

In August, 1876, the doors of the Sapporo Agricultural College were opened to a well prepared class of eighteen students, taken from the schools at Tokio. At that time, but little actual preparation had been made, and, except a dormitory building for the students, there was only one building containing recitation rooms for the accommodation of classes in the college and school. The work of organization and instruction commenced at once, students and officers entering into their duties with great zeal. Liberal grants from the Government soon rendered it possible to procure the necessary books and apparatus, and to build and thoroughly equip a chemical laboratory, which should answer all the requirements of general instruction and advanced analytical work. A large tract of fine land — formerly a part of the Government farm — was assigned to the college for the agricultural instruction of students in the most advanced methods, and as a model for the farmers of Hokkaido. The necessary buildings were quickly constructed, and the requisite live stock and implements procured. The whole was then placed under the independent management of president W. S. Clark, as director. Later, provision was made for a plant-house, and the erection of a building which should contain a military hall and recitation rooms.

The promptness with which the necessities of the college have been recognized and provided for by the Government, has permitted a rapid and healthy growth; and at the present time, with its full number of students, all the departments are in a condition to permit the thorough accomplishment of the work assigned to each.

On the July 10th instant, the academical course being concluded, the first batch of graduates received their diplomas. The importance of the occasion called for the unusual excitement both within and without the college. At an early hour all was bustle and preparation. The large hall used for military drill, within the

college precincts, was to be the place of meeting. This required to be decorated with flowers and evergreens, and ornamental lanterns had to be hung for the evening illuminations. All this was accomplished in due order and with a good deal of taste. The students of the college, about fifty in number, were assembled at two o'clock for drill under the command of Lieut. Kato, and the way in which they went through their exercises displayed an earnestness which did every one credit, and excited the admiration of the spectators. There can be no doubt that such exercises are beneficial in many ways. They improve the deportment of the students, they give them an upright bearing and a firm, steady gait, demand prompt attention and accuracy of movement, and so correct some of the common faults of Japanese youths. In the case of these young men the military drill seems to have had the best results. The college staff has also been diligent in producing a class ready for graduation of no contemptible attainments, and of whom no college need be ashamed. They are the first-fruits of this very important undertaking among the Japanese, and promise well for the future of the northern part of the Empire. According to the term of the bond entered into when they matriculated, they are bound to serve under the Colonization Department for a term of five years. Here, therefore, we have thirteen graduates of the Agricultural College, ready to engage themselves in the earnest work of subduing the wild but rich regions of this fertile island and its dependencies. What the results will be we must look to the future to show, but we have every hope that, with intelligent officers of government, and healthy men like these, the future of Yezo will be prosperous if the fates are propitious.

The following gentlemen, on the recommendation of the Faculty and with the approval of the Governor and Minister of the Colonial Department, received the degree of *Nôgakushi*, with its attendant honors and privileges: —

Arakawa Shigehide, Sato Shosuke, Oshima Masataka, Ono Kanemoto, Kuroiwa Yomonoshin, Watase Torajiro, Uchida Kiyoshi, Sato Isami, Ito Kadzutaka, Tanouchi Suteroku, Ideta Seitaro, Nakashima Shinshi, and Yanagimoto Michiyoshi.

The graduation exercises were: — Japanese oration by T. Watase. — "Agriculture is the most useful, the most healthful, and the most noble employment of man." English oration, by

K. Uchida. —"Scientific Training is necessary for the improvement of Agriculture in Hokkaido." Japanese oration by M. Oshima. — "No Battle, no victory." English oration by S. Sato. — "Hokkaido and its colonization." English oration by S. Arakawa. — "Union is strength; Union is competent to do everything." There were also valedictory addresses, to H. E. the Governor, to the professors of the college, and to the students of the college and school.

These speeches, which were spoken with the freedom and nerve that mark well disciplined minds, contained many excellent remarks on the subject of the colonization and resources of Hokkaido.

The prizes to the successful students of the various classes were then awarded. These prizes were in money, the highest amount being five yen. The whole manner and bearing of the students during the various exercises and the bestowal of the prizes, reflected very favourably upon the college and the habits of the students.

After the names of the gratuates had been called over and their diplomas had been handed to them by H. E. the Governor, Mr. Dzushio, Professor Penhallow read an address to the graduating class. The vice Governor, Mr. Suzuki, and H. E. the Governor, Mr. Dzushio, then read addresses in Japanese, and the proceedings terminated about 6 o'clock. We are enabled to give the text of Mr. Penhallow's speech, which was as follows:——

Gentlemen, ——The day and the occasion which call us together are suggestive of many thoughts connected with the changes and improvements of the last four years, at the commencement of which you came here as strangers to aid in enterprises undertaken for the advancement of the highest interests of this part of the Empire, and as an initiative step entered this college as its first students. As such, your efforts have been attended with success, and today you take the second step, coming before the world equipped to fight your own battles in life, and, it is to be hoped, to promote the welfare of your fellowmen. This day should be remembered as a day of great significance. It marks the firm and successful establishment of a new educational centre in this part of the Empire — another evidence of the striking changes and improvements which are constantly being made in Japanese educational methods, and which have attracted the greatest attention from western nations. Education is a great humanizer; the foundation of a noble and useful manhood. But it is not to be com-

pleted with graduation from college; the greater part comes in after years as a superstructure upon previous acquirements, and is therefore dependent for its stability upon them. The advantages you have enjoyed in this institution, should lead you, in choosing your future course in life, to aim high; acknowledging your dependence upon an all-wise Creator, and your duty to your fellowmen; accepting whatever responsibilities may rightfully fall to your lot as duties to be faithfully performed; and feeling that in *right is might*, fearing not to deal with wrong and temptation as they deserve. Broad fields for useful effort are before you. Japan is old in years, but young in her relations to the most advanced nations of the world, and in her future progress and development, many opportunities will be presented to you. New enterprises will be opened; natural resources yet remain to be developed, and the vast mine of agricultural wealth in Hokkaido now unexplored, should encourage you to make every effort for their development, and will surely bring rich returns to those who diligently seek to gather that which nature has so lavishly provided. In whatever course your future may lead you, do not fail to continue that self-culture which you have here learned how to acquire, but push steadily forward toward a more perfect standard.

His Excellency Governor Dzushio, entertained the officials of *sonin* rank, with the professors and graduates of the college, at dinner in the dining hall, at seven in the evening. After the health of His Majesty The Emperor had been drank, and various other toasts been responded to, Mr. Dzushio proposed the health of Professor Penhallow, who is on the eve of his departure for America. He said that the success which had attended the first course of the Sapporo Agricultural College was in a large measure due to the exertions of Mr. Penhallow, who had devoted himself effectually to the succses of the institution. A number of speeches in Japanese, and a general hilarity among all present, rendered the entertainment eminently agreeable.

[The Amherst Record, September 1, 1880]

四四 北海道の学校生徒食料品に道産物を用いる件回答

九ノ十八号

東京三等出仕
書記官

札幌書記官

北海道学校生徒食料之義可成該道産物相用度長官見込ニ付実際被行

候様手続可調越旨札第四百廿七号御来意了承当地農学校ニ於而者従来既ニ其趣意ヲ遵守シ渾而北海道産ノ麦肉類等ヲ用ヒ洋食為致居候又公私学校江相及ホシ候義ハ御来意之通リ不容易儀ニ而是迄屢実際ニ相試ミ候得共兎角永続相行レ兼在再今日ニ至リ候乍然尚精々取調其方法追而可申進此段及御回答候也

十三年九月十四日

付 北海道の学校生徒食料品に付申入

札第四百弐拾七号

東京三等出仕
札幌書記官 書記官「金井」〔朱書〕

北海道学校生徒食料之義改良致度可成該道ニ而収獲スルモノヲ以テ滋養分含有之重ナル品ヲ与ヘ候ハヽ現今将来ニ於而其効可有之乍併一時ニ之ヲ施サントスル者不容易事故差向試験トシテ官立学校ノ分麦玉蜀黍馬鈴薯肉類等ヲ該料ニ充執行シ漸次公私立学校へも及サレ度長官見込ニ有之右主旨御了承外ニも適当之品有之候ハヽ御差加ヘ実際被行候様ノ手続御調越相成度此段申進候也

十三年七月廿二日

〔農〇九四〕

四三三 玉葱販売に付依頼

物往第四十号

東京物産取扱所長 札幌書記官

当地農学校園ニ於テ栽培セル珠葱土地ト気候トニ適ヒ其結果甚タ可見モノ有之然ルニ地方之需用モ僅々ニ有之就テハ御地方面ニ於テ売捌之如何ヲ試ミ度ト存候ニ付今玄武丸便ヲ以テ弐百六拾弐斤差遣候条御査領之末其筋ニ於テ販売御取計相成度昨年横浜在留之商人へ払下候処同所到着不残腐敗致候趣申出右ハ唯俵詰ニして荷造等ヲ致サヾルより生シタルカ将タ瀛船ニて自然温気ニ触レ然ラシムル所カ了解難致依テ此度者函詰ニして差送候間現品着之上無事ナルヤ否電報御通知相成度尤当地貯蔵之分猶五千斤余有之ニ付販売ノ景況ニヨリ幾許ニテモ御回シ可及候条其都合向御通信有之度別紙代価付ヲ添此段及御依頼候也

明治十三年十月十三日

追テ本文荷造等良便之方モ有之候ハヽ御呈示有之度候也

〔別紙〕

記

一 早熟黄色珠葱 百三十七斤
一 同 紅色同 百弐拾五斤

合弐百六拾弐斤

此代金拾円四拾八錢　但売価百斤ニ付金四円之割

右之通

〔農〇九五〕

四三四　農業実習再開に関する本科一年生の要望書（一〇月）

Supporo Agricultural College
[sic]

To President William P. Brooks.

We undersigned your humble pupil, are exceedingly sorry to hear that your illness lasts so long that till this day you are unable to discharge your business. But, at the same time we are glad to hear that you are getting better and better day after day. We eagerly desire that you would soon become quite well, and to have our duties under you.

Sir, we are rather perplexed and feel unwilling to bring out and place before you the following matter, which contrary to our affection and which seems rather impudent and impolite; yet notwithstanding these, we are hard pressed by it, and are in the strongest necessity of stating it.

Over many hundred miles, through the foaming waves and over hoary mountains, from the crowded city to the secluded and solitary place, which a few years ago had been so desolate and dreary, that the only inhabitants were semibarbarian Ainos; leaving behind us our parents, brothers and friends, we have come out to promote the welfare of our country; and in order to render our country prosperous, we must make our agricultural system more elavorate [sic] and extensive. This is the arch-object upon which this college was established; and agriculture, like many sciences has its foundation to practice rather than to theory.

Now the teachings of agriculture and that of manual labor are assigned to you, but now, you are in a position of being unable to teach your humble pupil and to discharge the heavy duties which the director has confided to you.

Reflecting back, more than fourty days have elasped since we have ceased to work upon our manual labor, and as winter approaches, we shall soon be in a situation to relinguish [sic] our works for several months. Sixty days have passed away since our entrance to this college, and from that time forward, only twice we have experienced our most useful and important duty — that of manual

labor.

This is the unhappy prospect for us, and would be more so, if the labor been stopped longer. We are now in a position as a child before maturity; his future care is based upon the education of his earlier days, if he is brought up in an active way and carefully educated, he will certainly become a man if business; [sic] but on the contrary, if his education had been neglected, he would become a man of no hope; so our future development lies at this moment; if we now cease our manual labor, even for a time, we have less chance of working in pure air, which is indispensable to health; and if we remain long in this state, it will soon become our habits, and would be enslaved by it, then we have our limits indeveloped, our bodies lose much of their stimulus we become lazy and torpid; then the mind surrounded by such discouraging circumstances will droop and wither away like a plant in an uncongenial air, and at last would sink into a kind of listless aparly from which to recover would be a task of infinite difficulty.

As we have stated a few lines back manual labor as applied to agriculture is the most important and useful, and as its experience is the foundation of our future development, we apprehend that even for a time, we must not cease to work it, and to shrink back from it is quite contrary to our volition and will.

But, unhappily nature as if conspiring against us has rendered the profesor, [sic] under whom we labour, unable to do his business; our deppression [sic] and anxiety stick deeper as your illness last longer:

Although the art is long, but the time is fleeting, and as we shall never gain the time, we are in a tip-toe expectation of working manual labour this month, the next month is November, snow will begin to fall, and we shall soon be obliged to stop our fieldwork for several months. If this be the case this year twice and only twice we have to experience our most useful and important occupation — the manual labour.

We have eagerly longed for your becoming perfectly well, but not yet our hope had been fulfilled.

Night and day, we laboured under anxieties, as all of members of class have imquenchable [sic] thirst for manual labour, we confined together and after much hesitations and scruples, at last have come to a decision that under any one we desire to labour, who shall occupy your place for a time that is to guide us in the name of

yours. — And as we think that the decision of this, is under your control & in your will, we most humbly beg and eagerly solicit that you will choose any one whom you think quite fitted for filling your place during your illness.

Therefore we have dared to place before you this petition in spite of your illness and regardless of our impudence and rudeness.

Your most obedient and humbled pupil,

T. Fukuhara T. Hayakawa G. Hondo A. Hosokawa
M. Kashiramoto K. Kawamura T. Kuromiya K. Kikuchi
K. Mimasu T. Mori T. Nakagawa H. Nakane
B. Oka T. Sase S. Shiga Y. Takenobu
J. Teshima S. Watase K. Yamashita S. Yuki

〔ブルックス五二〕

四三五　仏国留学生西村哲帰朝の届

乙第百七号

海外留学生西村哲帰京ノ義御届

当使官費生徒西村哲義去ル明治九年九月甲第十九号伺済ノ上仏国留学罷在候処本年春以来肺疾ニ罹リ到底該地於而者療養モ不充分ノ趣医師診断ニ依リ客月廿一日帰朝候条此段御届仕候也

明治十三年十一月十日　　開拓長官黒田清隆

太政大臣三条実美殿

〔道一〇七六八〕

四三六　サマーズ申出の書籍購入に関する件

第百六拾五号

千八百八十年十一月十七日札幌呈

札幌農学校長開拓大書記官調所広丈閣下

書籍類購入之儀ニ付教授サンマルスヨリ森氏ニ進達セル書翰同氏ヨリ余ニ贈遣ニ付即チ謹テ呈供仕候右購入ノ儀ハ都テ同意難仕乃チ其理由ヲ左ニ挙ケン

第一　甲印ハ既ニ注文済ノモノニシテ則文庫ニ現在ス

第二　乙印ノ分ト同旨趣ノ書籍ハ一部現在セリ故ニ更ニ購入ヲ要セズ

第三　丙印ハ専ラ経歴ト文学トヲ旨記セルモノニシテ医学士カツタノ教授スル所ナリ其趣意タル悉ク同人ノ所要ニ係リ且既ニ購求申出ノ旨ヲ了承ス

右ノ次第ニ付斯ク夥数ノ学課用書籍購求之儀ハ実益無之乍併丁印ノ分而已ハ各一部ツヽ購入アランヲ勧奨ス

第四　戊印ハ〔注一〕生徒学読上有益アラザルヲ以余之ヲ承諾スルヲ得ス

将又シェークスピヤ扁第八世ヘンリー伝註解入二十部購入致度旨尚又医学士カツタヨリ申出候其代価ハ教授サンマルス目録ノ初発ニアルビニス商賈ノ伝ニ異ナルナカルベシ此段副申候也

札幌農学校教頭心得ウヰルリアム、ピー、ブルークス謹言

〔別紙〕

千八百八十年十一月十六日

呈札幌農学校森源三殿

貴翰ノ来意ニ応シ別記書目送呈仕候右ハ本校幷予科ノ為ニ得テ以テ須要ト被存候将又当文庫ノ備用ノ為更ニ他ノ書目ヲ添載仕候書中ホ字ヲ記セシ者ハ本校用トシ、ヨ字ヲ記セシ者ハ予科ノ積ニ有之候小輩ノ思考ニハ本、予、両科ニテ二十部乃至二十五部許被購候方適宜ト被存候其故ハ二十五部一括ニ之ヲ購求スル時ハ買客ノ為ニ代価ヲ減却スル甚タ多シ通常価記ヨリ二割五分乃至三割ノ価ヲ減スベシ且前価惣額ヲ計算スルニ凡洋銀弐百弗ニシテ足レリトスベシ尤運賃保険料等ハ中ニ含マサル者トス敬白

ゼームス、シンモンス

倫敦府ウイリエム、コルリンス商社刊行書目

ホ　一　セーキスピーヤ著ウエニス商賈ノ伝（注解入）一部ニ付　一シル　リン　シルリンハ廿五セントニ当ル

ホ　一　同ジユリユース、シーザルノ伝　一部ニ付　一〃　一シルリン、六ペンス　ペンス、ハ二銭ニ当ル

ヨ　一　モリソン著英文軌範　〃　〃　一シルリン六ペンス

ヨ　一　ウヲルトル、マクロード著文章注解　〃　〃　一シルリン六ペンス

乙　ホ　一　レイング著英国文学歴史　〃　〃　一シルリン六ペンス

甲　ホ　一　英文章類集　一シル六ペンス

甲　ヨ　一　デーウ氏著経蹟万国史　一シル、六ペンス

ヨ　一　言詞来由辞書　一シルリング

〆

倫敦府カセル、ペートル社刊行

甲　ブ　一　〔注二〕アーダムス著英国文学辞書　十シルリン六ペンス

ブ　一　万国風土記　一部五巻　七シルリンク

ブ　一　ブローン氏格物記術　一部二巻　九シルーリン

ブ　一　大英国巨大工業　一部三巻　七シルリン六ペンス

倫敦府ロングメン社刊行

ヨ　一　読書必携　一部五巻　四シル十一ペンス

丙　ホ　一　近世史　一部五巻　二シル六ペンス

丙　ホ　一　ポルレル氏著羅馬饗史　――――　三シル六ペンス

丙ホ 一 古代歴史 ○ ○

丙 一 アセニヤン帝国記同希臘人及伯品西人ノ部 五シルリング

丙 一 倫敦ジョン、モレイ社刊行トームスノ著 ゴール人羅馬掠略迄ノ歴史 二シル、六ペンス

ヨ 一 小学校用近世地理学教授書 五シルリンク

ヨ 一 倫敦ヂョージベール商社刊行 小学近世英文範科教授書 三シル六ペンス

ホ 一 フレデリツキ、シーケル著文学歴史 三シル六ペンス

ブ 一 古物学手簿 七シル六ペンス

ブ 一 ブラチー社刊行 シエーキスピーヤ氏戯曲書 七シルリング

丁ホ 一 同著読本幷新聞読本新誌中ノ要件抜萃 三シルリンク

倫敦府ウヰルリアム、コルリン商社刊行書籍目録補欠

一 シツクスピーヤ著ウエニス、商賈ノ記 二拾部 一部ニ付一時吟

一 〃 ジユリユースシーザルノ伝 二拾部 一部ニ付一時吟

一 〃 第八世ヘンリーノ伝 二拾部 一部ニ付一時吟

一 モリソン著英文軌範 二拾部 一部ニ付一時吟 五辺士

一 倫敦カルペン街カツスルペツトル刊行来由辞書 二拾部 一時吟

一 江湖世界国土ノ記 壱部五巻 各七時吟七辺士

一 ドクトルブロウン著学術書 一部弐巻 各巻九時吟

一 倫敦ロングウヲルム商社刊行大英国大工業書 一部参巻 各巻七時吟六辺士

一 読書必携 弐拾部壱部五巻壱部 四時吟拾一辺士

一 近世史 一揃 各部二時吟六辺士

一 ポルレル著羅馬黌史 一部 三時吟六辺士

一 コツク著アセン帝国希臘人及ヒ伯品西亜人 一部二巻 五時吟

一 倫敦チヨン、モルレイ刊行トームン著ゴール人羅馬掠略迄ノ歴史 一部 二時吟六辺士

一 近世地理学ノ教科書 二拾部 一部 五時吟

一 倫敦ヂョーシ、ベール商社刊行 近世英文範教科書 二拾部 一部 三時吟六辺士

一 フレツトスレツヂル著文学歴史 一部 三時吟六辺士

一 古物学手簿 一部 七時吟六辺士

一 デイ、アルリシ刊行シヤークスヒーヤタラスチツタアルト 一部 七時吟

〔注一〕 戊印の記載なし。

〔注二〕 欄外に朱書で「ブ字ハ文庫ノ意ナルベケレトモ書中ニ述ベズ」と記載あり。

〔道〇三八三一〕

四三七　外国新聞送付の件

調第弐百四十七号

東京調度科 印

札幌学務課

其庁十三年度外国品見積書中其課需用ノ外国新聞紙別記之通今般郵達候付高千穂丸便ヲ以廻致候条御査入追而受取証御差越相成度此段申入候也

十三年十一月廿日

追テ本文ノ内「ラントエントホーム」ハ現今出版停業致候旨大蔵省より報道有之候条御了承相成度此段申副候也

〔別紙〕

入記

丁第五十九号

一　莚包函　壱個

内

エヌ、ワイグラフキツク　八十三部

サイエンチフキツクアメリカン　拾六部

右附録　拾六部

アメリカン、シヨルナル、オフ、サイエンス、アンドアート　三部

リテラリー、ウオルド　七部

ハープルス、ウキークリー　拾五部

アメリカン、アグリコルチユリスト　五部

コントリー、ゼントルマン　拾三部

ウキテリナリアン　三部

ガードノルス、モンスリー、アンド、ホルチユルチユリスト　三部

セントニコラス　四部

スクリブネルス、モンスリー　四部

イラストレーテツド、クリスチアン、ウキークリー　拾五部

イラストレーテツド、ロンドンニユース　拾三部

右之通

〔農〇九二〕

四三八　ピーボディ雇継承諾の請書

第百八十号

千八百八十年十二月十一日於札幌

呈開拓大書記官調所広丈閣下

去ル十日附貴翰之趣拝承右ハ小生約定書本年十二月廿六日ニ於テ満期相成候処黒田長官殿ニ於テ更ニ延期被成即チ来明治十四年七月卅

一日迄従前同一ノ定約ヲ以テ御雇継相成候趣承諾仕候尤右第五条中左ニ記スル文義即チ「給料トシテ一ケ月日本貿易銀弐百五十円若クハ開拓使ノ都合ニ拠リ同相場ノ日本紙幣ヲ同氏江払フベシ」之廉ハ「給料トシテ一ケ月日本銀貨弐百五十円同氏江払フベシ」ト相改メラレ而シテ他ノケ条ハ従前ノ通ヲ以テ御雇継相成候趣領諾仕候也

シー、エッチ、ピーボデー識

〔道〇三八三一（ピーボディ七）〕

四三九　明治一四年度外国よりの購入品に付伺

農第百十九号

上局㊞（調所）　農学校㊞（森）㊞（加藤）㊞（加藤）

㊞（佐藤）外事課㊞（小林）

㊞（内海）検査課㊞（福沢）

一　仏蘭西貨幣弐百弐拾五フランク

是ハ仏国ヨリ可購入顕微鏡代

一　米利堅貨幣三百八拾六弗拾五セント

内訳

弐百拾三弗八拾セント　器械類

百五拾八弗三拾五セント　書籍類

拾四弗　薬品雑品

一　金四拾四円

是ハ東京ニ於而可購求洋書代

明治十四年度学校費ニ係ル外国品購入金額諸教師ヨリ申出候分精々節減為致候得共別紙記載候分者何れも学科上必用之品ニ付購求方御許可相成度右御允裁之上ハ外事課ニ於而成規之通取計候様可仕此段相伺候也

＊　十三年十二月六日

＊　〔朱書〕「其後第弐拾三号ヲ以テ本使定額御渡年限ハ十五年一月ニ於テ満期ニ付十四年度予算ハ十四年七月ヨリ十五年一月迄調整可差出云々依テ別紙見積書中朱書ノ通リ刪正セリ後ノ参考ニ供セン為メ玆ニ付箋ス

明治十四年二月十七日」㊞（加藤）

〔別紙〕

明治十四年度〔朱書〕「但十四年七月ヨリ同十五年一月迄ノ分」外国品購求見積書

常用ノ部

器械類

十四年　月用

仏国巴里セント／セウエリユー街拾七番地館ノセット／エー／フキース」より購入

〔朱書〕「カ」一　双眼顕微鏡　壱個

第三拾弐号
凡積代価金
此仏貨百五拾フランク
受領場所　横浜歟
此器械ハ札幌農学校ニ於テ解剖学ヲ教授スルニ用ユ

〔朱書〕「カ」一　マイコロメイトル視鏡（可動）　三個
尺寸
凡積代価金
此仏貨四拾五フランク
受領場所　前ニ同じ
所要事由　同

〔朱書〕「カ」一　カメラ／ルンダ〔ルシダカ〕　弐個
尺寸
凡積代価金
此仏貨三拾フランク
受領場所　前ニ同じ
所要事由　前ニ同じ

〔朱書〕「消」
器械類
迄　十四年　月用
米国抹州ホストン府プロブヰンス／コールド街九番ボツフ／エンド／ベルゲル商社ニテ購求ス可キ分

〔朱書〕「土」一　ワイ／レウエル　壱個
但拾八英寸直立望遠鏡及クラムプ幷タンゲント螺糸釘
附属
凡積代価金
此米貨百四拾五弗
受領場所　横浜
此器械ハ札幌農学校ニ於テ土木学教授スルニ用ユ

〔朱書〕「土」一　フヰラドルフヰア平準竿　弐個
寸法
凡積代価金
此米貨三拾六弗
受領場所所要要旨前ニ同じ

〔朱書〕「土」一　鏈索　壱条
長百英尺但し蠟附セル鎖及鐶なり
凡積代価金
此米貨拾五弗

〔朱書〕「土」一　鉄製下ケ振　弐個
凡積代価金
此米貨壱弗半

受領場所所要要旨前ニ同じ
[朱書]「土」一　リーヂング鏡　壱個
凡積代価金
此米貨五拾セント
受領場所所要要旨前ニ同じ
米国紐育府「バルクレー／ストレート」拾番地「ベンジヤミン」氏方ニテ可買入分
[朱書]「舎」一　モールス氏量液管　弐個
周囲弐寸　長弐尺
凡積代価金
此米貨六弗
受領場所　前ニ同じ
此器械ハ札幌農学校ニ於テ化学ヲ教授スルニ用ユ
[朱書]「舎」一　ゲースレル氏炭酸試験器　壱個
長サ五寸
凡積代価金
此米貨壱弗五拾セント
受領場所所要ノ要旨前ニ同ジ
[朱書]「舎」一　瓦斯産製器　壱個
長壱尺五寸　周囲壱尺
凡積代価金
此米貨六弗八十セント
[朱書]「舎」一　「ビュレット」スウインマル」　三個
長壱寸
凡積代価金
此米貨金壱弗五拾セント
[朱書]「○」是迄取消」
書籍ノ部
十四年　月用
英国龍動府ウイリアム、コルインス商社刊行
一　シエーキスピーヤ著ウエニス商買ノ伝註解入　二十部
凡積代価
此米価五弗
受領場所　上ニ同シ
此ハ札幌農学校教授用以下同シ
一　英国文学歴史　二十部
同
此米貨六弗四十仙
一　シーケル　文学歴史　同
同
同十八弗

一 英作文法 同
同 同十三弗五拾仙
同五弗
一 各国史 二十部
同 同二十弗廿五仙
同十八弗
一 羅馬史 同
同 同二弗
同十八弗
一 シエキスピヤ読本 同
同 同壱弗九拾仙
同五弗
一 英文軌範 十五部
同
同四弗八十仙
一 小学近世地理書 十五部
同
同二十一弗
一 同英文法 同
同
一 読書必携 一ヨリ六マテ 同
同
同二十弗廿五仙
一 古物学手簿 壱部
同
同二弗
一 シエキスピア戯曲書 壱部
同
同壱弗九拾仙
米国ボストン府華盛頓町ウヰリアム商社ヨリ可購入新聞雑誌類
十四年七月一日ヨリ
一 亜国学術新報 十四年七月ヨリ十五年六月迄壱ヶ年分 同十二半
一 同附録 但画入毎週刊行
此代金
此米貨 弐五弗 五十セン
一 ポピラール、サインス月報 同上
此代金
米貨 弐五弗 五拾セント

一　亜国農夫新報
　　此代金
　　此米貨　一弗半　七拾五セント
一　英国獣医月報　同上
　　同
　　同五弗　弐　五拾セント
一　チカゴ府大曠野農夫週報　同上
　　同
　　同三弗　壱　五十セント
　　東京或ハ横浜ヨリ可買入分
〔朱書〕「直」
一　ロスコー氏大化学書　三巻
　　凡積代価金弐拾四円
〔朱書〕「直」
一　ロビンソン氏実用算数学書　二十部
　　凡積代価金弐拾円
〔朱書〕「直」
　　雑品之部
十四年七月用
一　白金線　六尺
　　凡積代価
　　此米貨四弗
　　受領場所
　　是ハ同校ニ於而化学教授ニ用ユ
一　瑞典濾紙　弐帖
　　凡積代価
　　此米貨三弗
　　所要事由前ニ同シ
一　仏蘭西濾紙　五帖
　　凡積代価
　　此米貨弐弗
　　所要事由前ニ同シ
　　薬品之部
十四年　月用
　　米国紐府バルクレー、ストレート拾番地ベンジヤミン氏方ニ而可買入分
一　ニコチン　四分ノ一オンス
　　凡積代価
　　此米価四弗
　　受領場所
　　此薬品者同校ニ於而化学教授ニ用ユ
一　ストレキニーネ　四分ノ一オンス
　　凡積代価金

此米貨壱弗

〔農一〇二〕

四四〇　農学士荒川重秀佐藤昌介留学不許可の件

農学士荒川重秀外一名米国留学願書添御申出ノ趣承知致候然ルニ海外へ留学致候迚学業頓ニ進歩セルモノニも無之且現今財政ノ景状ニ依リ一般官費留学生ハ差止メノ問題モ有之候程ノ義殊ニ来年度ヨリ当使需用ノ正貨ハ五万円ヲ限リ候御達ニテ現在支用高ニ不足ヲ生シ候次第ナレハ右荒川外一名出願ノ旨趣ハ一応尤ノ事ニ候得共前述ノ訳柄篤ト諭達本人共能ク其意ヲ了解候様御取計可有之此段申入候也

十三年十二月六日　　黒田長官

調所大書記官殿

付　荒川重秀外一名留学の儀伺

本使農学士荒川重秀佐藤昌介義米国留学被命度段別紙之通懇願書差出来候然ルニ農学卒業生海外留学ノ義ニ付テハ嘗テ函館表御滞在中奉伺其節留学ハ御差許不相成旨御下命ノ趣モ有之義ニハ候得共本人共ノ志望剴切ナル次第ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ願意御許容相成ニ於テハ当道開拓上ニ取リ有益ナル更ニ陳述ヲ竢タサル義ト存候尤モ方今ノ御場合ニ付閣下ノ尊慮果シテ如何トハ恐察候得共斯ク折角ノ積志難黙止一応進達仕候間何分ノ御指揮相成度此段御内意相伺候敬具

明治十三年十一月十九日　　調所広丈㊞

黒田長官殿

〔別紙〕

微臣農学士荒川重秀佐藤昌介謹テ書ヲ調所公閣下ニ呈ス臣等才識譾劣学問空疎而シテ曩キニハ農鬻官費生タルノ台命ヲ辱シ在学多年焉其間衣食ニ居室ニ書籍ニ凡ソ書生就学ノ為メ要スル所ノ者ハ一トシテ本使ノ之ヲ供給セザルハナク本使ノ臣等ヲ待ツや実ニ優渥周到臣等ヲシテ不覚感泣奮起セシムルコト屢々ナリキ嗚呼臣等ハ何等ノ幸福男児ぞ何等ノ冥利書生ぞタトヘ新開ノ邦土絶海ノ窮島ニ按息スルモ起居安逸暖衣飽食凍天ノ風雪ヲ冒スモ敢テ其酷寒ヲ感セス物価ノ騰貴ニ逢フモ更ニ其困苦ヲ知ラス兵馬ノ倥傯ナルヲ聞クモ毫モ其禍害ヲ享ケス断トシテ内顧外眷ノ煩ヲ絶チ静ニ良師ヲ仰キ典籍ヲ友トシ一ニ就ク所ノ学ヲ専修スルヲ得タルハ実ニ本使ノ供賜偏ニ長官閣下ノ命ヲ奉シ閣下ノ計画スル所アルニアラスンハ焉ぞ此ニ至ルヲ得ンヤ嗚呼閣下ハ農鬻ノ柱礎臣等ノ師伝ト云モ誰カ臣等ヲ目ステ溢美ノ諛言ヲ呈スルモノトセン然而本使ノ如此優渥ノ鴻恩ヲ垂レ臣等ニ待ツモノハ他ナシ深ク学問ノ微妙ヲ探リ芸術ノ蘊奥ヲ叩キ之ヲ実際実務ニ活用施行シ大ニ全道ノ開拓興農起業ニ裨益スル所アルヲ期セラルニアルヤ必セリ臣等無似ト雖トモ厚ク此意ヲ肺肝ニ銘シ円枕錐

股学ヲ勉メ垂帷閉戸思ヲ精シ夙ニ大成ヲ期シ幸ニ今玆七月定規ノ課程ヲ卒ヒ考試ヲ経テ科第ニ登リ農学士ノ顕号ヲ賜ハリ直ニ本使ノ採用ヲ蒙リ身ヲ仕進ノ末班ニ列ス嗚呼臣等ノ光栄モ亦タ大ナリ然而臣等如此未曾有ノ学位ヲ拝受シ書生無比ノ光栄ヲ忝冒シ中心常ニ惶懼止ム能ハサルモノアリ何ンソヤ曰ク臣等学浅才拙上ハ本使ノ特旨ニ称ハス下ハ公衆ノ岐望ニ副ハス其罪深且大ナルコト是レなり蓋シ所謂農学ナルモノハ内ニ舎密本草獣医ノ諸科ヲ包含シ其意義タル頗ル容閎駁雑決シテ算数ノ簡単純一ナルモノニ似ス故ニ深ク其奥妙ヲ探ント欲セハ必ス広ク格物窮理ヲ渉猟シ多年ノ経験考究ヲ積み始メテ農学ノ何者タルヲ談スヘキなり我邦古来農ヲ以テ国ヲ立テ経験之久も農事ニ於テ務メサルモノナシト雖トモ農家其然ル所以ノ理ヲ知ラス偶農学師佐藤信淵翁ノ如キモノ世ニ出テタリト雖トモ其説ク所大概ネ封建治世ノ農政ニ亘ルモノ多ク造化ノ妙法ヲ観破シ農学ノ真理ヲ発悟セルモノ甚タ稀レなり故ニ臣等農餐ニ在リ日常農学教師ニ親炙シ其講スル所ヲ聞キ其施ス所ヲ視ル毎ニ探ク泰西農学ノ進歩ヲ羨シ我邦農家ノ旧法ヲ墨守シ事理ニ疎キヲ嘆セスンハアラサルナリ然而奮然以為ク彼ノ長所ヲ取リ我短所ヲ補ヒ以テ農事ノ改良進歩ヲ促シ大ニ拓土植民開物成務ニ益シ遂ニ全道ノ殷富隆盛ヲ来サレハ是レ本使巨額ノ費ヲ吝マス農餐ヲ設ケ厚ク書生ヲ薫陶セラルヽ所以なり故ニ臣等日夜齷齪泰西ノ文物ヲ我邦ニ移スヲ務メサルヘカラスト雖然農餐ニ在ツテ教育ヲ受ケシモノニテソノ或ハ樹芸或ハ牧畜或ハ園農或ハ治療ニセヨ未タ我邦ニ実施セザルモノ多ニ居ルヲ以テ其理由ヲ聞クモ其実行ヲ見ル能ハス其然ル所以ヲ談スルモ其為ス所ノ業ニ於テ拙ナルコトヲ免レス臣等之ヲ反省シ深ク心ニ愧ツル所ナキニスモアラス古人曰百聞ハ一見ニ如スト願ハクハ一タヒ海外ニ航行シ親シク農事ノ実際ヲ視察シ大ニ利害得失ノアル所ヲ研究シ之ヲ平素学ヒ得タル所ニ反省セハ遙ニ万巻ノ書ヲ読ミ空々理論ヲ談スルニ勝ルヘシト雖然当時未タ学業ヲ卒ヒス亦タ典籍師友ニ乏シカラス敢テ渡海ヲ請願スルハ潜越ノ罪ヲ犯スヲ免レスト思考シ屢々東隣北米聯邦ノ天ヲ望ムノ念心ニ萌スモ自ラ心ニ問ヒ心ニ抑サヒ孜々螢雪ノ功ヲ積ミ学成ルノ日ヲ待ツや実ニ一日千秋ノ思ヒヲナセリ且ツ又タ以為ラク文部工部司法及海陸ノ諸省ニ於テ卒業生ヲ海外ニ留学セシメ其大成ヲ期セラルヽノ挙アリ我開拓使長官ノ賢明ナルアリテ加ルニ閣下之ヲ翼賛ス焉ンそ独リ此ニ視ル所ナカラザルヘキ況ンヤ既ニ本使ニ於テモ二三ノ学生ヲ米ニ仏ニ留学セシメラルヽニ於テヲヤト深ク留学生派遣ノ美挙アラセラルヽヲ期望セシニ既ニ臣等農餐卒業已来殆ント半歳ヲ閲シ未タ嘗テ其議アラセラルヲ聞カス而シテ本使ハ夙トニ臣等ヲ待ツニ官責ヲ以テス臣等固ヨリ多年本使ノ厚恩ヲ受ク焉ンそ焦心粉骨タトヘ河海ノ一滴九牛ノ一毛タリトモ其報効ヲ致サスシテ可ナランヤ雖然臣等浅学菲才タトヒ道理ヲ暁ルモ事業ニ拙ナリ

叨ニ学士ノ頭号ヲ受ケ至大ノ光栄ヲ冒スモ果シテ其実力実効アルヤヲ知ラス思フテ爰ニ至レハ慙愧冷汗滴ルヲ覚ユルナリ退テ民間ニ在リ切磋ノ業ヲ積ンカ敢テ恐ル本使ノ期望ニ悖リ本使ノ鴻恩ヲ空フセンコトヲ進ンテ仕進ノ班ニ在リ大ニ興農殖産ノ道ヲ計画セシカ敢テ恐ル実際ニ暗ク官責ヲ尽ス能ハサランコトヲ之ヲ思ヒ彼ヲ思ヒハ惶悚々寝食猶安ラス嗚呼后天后天臣等ノ丹心ヲ知レリ臣等百歳ノ後チ永ク北海道ノ良友トナリタトヒ屍ヲ風雪ノ北境ニ晒シ骨ヲ広漠タル石狩ニ埋ムルモ誓テ経世富国ニ利用厚生ニ拓土植民ニ一ニ全道ノ為ニ計画スル所アラント欲ス雖然如何セン業志ニ随ハス蓋シ臣等又タ浅学韭才ナレハなり嗚呼閣下ハ臣等ノ師傅タリ臣等ノ丹心ヲ吐露スルハ閣下ニアラスシテ誰ソ仰テ願ハクハ閣下臣等区々ノ微衷ヲ憐察シ臣等ニ仮スニ三四ノ星霜ヲ以テシ米国留学ヲ命セラレナハ臣等ノ幸福之レヨリ大ナルハナシ果シテ然ラハ臣等ハ何等ノ幸福男児ナルそ何等ノ冥利学士ナルそ何ンそ独リ臣等ノ幸福臣等ノ冥利ニシテフミ止マンや蓋シ臣等ハ外邦ニ於テ臥薪嘗胆親シク稼穡ノ艱難民生ノ休養動物ノ飼育樹芸ノ便利器ノ用ヨリ農業ニ関セル百般ノ事業深ク其実際ヲ視察シ自ラ之ニ当リ経験考究事理ノ探知スヘキハ之ヲ農学博士ニ質シ併セテ西南諸州目今開拓ノ実況耕地ノ配置民口移植ノ方法政務及ヒ村落ノ設置ニ至ルヤ尽凡ソ耳目ノ及フ所ハ之ヲ聞見シ他日帰朝全道ノ開拓ニ於テ大ニ裨益スル所アランヲ期セハナリ閣下大慶臣等ノ燕言ヲ容レ臣等ノ哀願ヲ許シ玉ハヽ臣等益本使ノ鴻恩優渥ナルニ感激シ愈学術ヲ研磨シ誓テ学士ノ頭号ヲ汚サス本使ノ特旨ニ副ハントス冀クハ閣下諒察ヲ垂レ玉ハンコトヲ臣等尊厳ヲ冒瀆シ罪万死々々微臣農学士荒川重秀佐藤昌介頓首再拝

明治十三年十一月十七日　上呈

〔道〇四四三二〕

四四一　化学用書籍等購入の伺（一二月二〇日検印済）

上局

農第百二十三号

札幌農学校㊞（森）印（加藤）
㊞（内海）検査課印（福沢）

一　金四拾三円四拾銭

別紙ロスコー氏小化学書弐拾壱冊外五品本校ニ而当期学科上必用品ニ候処御用係宮崎道正当夏東京表ニ而買入所持致居候ニ付御買上相成候様致度御入費之義ハ予算中より御支出相成度併而此段相伺候也

十三年十二月

〔別紙〕

記

一　ロスコー氏小化学書　　弐拾壱冊

此金弐拾弐円三拾弐銭五厘但壱冊金壱円〇六銭五厘

一　同大化学書　　壱冊

此金八円也

一　ボーマン氏実地化学書　壱冊

此金三円弐拾五銭

一　水銀桶　壱ケ

此金三円三拾銭

一　ユジヲメートル　壱ケ

此金四円弐拾五銭

一　デスレール氏ポツタース球　壱ケ

此金弐円弐拾七銭五厘

合金四拾三円四拾銭

右之通候也

十三年十二月　宮崎道正㊞

〔注〕冒頭に「㊞（鈴木）輸入品購入規則ニ乖戻セサル様可取計事」とあり。

〔農一〇一〕

四四二　官費生徒支給金並に貸費額増額の儀伺

長官　調所大書記官

札幌農学校官費生徒支給金去ル明治十一年ヨリ壱人一ケ月金拾三円ツヽ、給与致シ来リ候処爾来物価逐々騰貴本年ニ至リ而者殊ニ困難ヲ極メ候依而諸給与品十分節減ヲ加ヘ候上猶壱ケ月金三円ヲ増加スルニ非サレハ到底相支兼候間御許可相成度又貸費生徒ハ月額ヲ金九円ト相定候得共是又官費生徒同様金三円ヲ増加月額金拾弐円ニ相定候様仕度此段相伺候也

明治十三年十二月　〔農一〇四〕

四四三　外国よりの購入品節減の旨通達

第百七拾二号

千八百八十一年七月ヨリ同八十二年六月迄ニ可購求外国品目録諸教師ヨリ申出候分取纏被差出候処当今諸官衙共非常節倹ノ折柄外国輸入品ハ殊ニ節減ヲ加ヘサルヲ得ス依テ書籍新聞等ハ別紙目録（原書ヲ云）中朱点ヲ加ヘ候分ハ見合セ候様可致又解剖学用トシテ仏蘭西国ヘ注文品中顕微鏡三個ト有之候得共其中壱個トカツター氏所持ノ分壱個新ニ譲受可申候ニ付該品ト是迄校中有合セノ品ト共ニ併用シ当分差支モ有之間敷ト存候間是又見合候様可致右御了承諸教師ヘモ御通達可有之此段申進候也

明治十三年十二月　開拓大書記官調所広丈　印

教頭心得ウヰルリアム、フルークス貴下

〔道〇三八三一〕